

総合戦略 主要プロジェクト 評価シート

| | | | |
|------|-------|-----|-------------|
| 評価年度 | 令和3年度 | 所管課 | 教育総務課・社会教育課 |
|------|-------|-----|-------------|

| | | |
|-------------|-----|----------------------|
| No./プロジェクト名 | 1 | いいでの子大したもんだプロジェクト |
| 関連総合計画 | 重8 | いいでの子大したもんだプロジェクトの推進 |
| | 1-3 | 次世代育成の拡充 |
| 関連総合戦略 | 4 | いいで田園ルネサンス |
| | | |

| | |
|------------|--|
| 1.プロジェクト概要 | Plan |
| 現状・背景 | <p>これからの時代を担う子どもたちへの教育は、これまで以上に変化の激しい時代において、自分で物事を考え、課題を乗り越えていく力を育てること、困難に負けずに自分の足で立って生きていける力が求められます。同時に、未来に対して希望を持ち、その実現に向けて自ら主体的に学び行動する力を育み、多様性を尊重し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していく姿勢が求められます。</p> |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> 学校の先生方と保護者の方々の協力が不可欠だが、どのようなやり方や環境づくりをするか具体案の検討が必要。 大学進学や就職を機に町外や県外に転出していき、なかなか町へ戻ってこない。町の将来を担う「人材育成」について、他課とも協力して思案する必要がある。 川は危険だから入ってはいけないとか、クマや猪がでるから山の近くに行ってはいけないなど、自然環境や異常気象の影響もあり、町の豊かな自然環境に触れる機会が少ない。 |
| 解決策 | <p>町の豊かな自然環境の中で、のびのびと学習できる飯豊町らしい特徴的な学びの環境を整え、子どもたちが自ら学び、感じ、実践することを重視しながら、大きな体験を得る学びを創出し、「高い志と誇りを持ち、飯豊のあすを拓く人づくり」を推進します。</p> <p>また、高等教育機関や研究機関と協力し、先端的な知識を学習・体験できる機会を構築し、広い見地と国際的な視野を持ちながら、町や地域を考えることができる人材を育てます。</p> |

| | | | | | | |
|-------------|---|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 事業目標/将来ビジョン | 学力の向上ではなく、自分で物事を考え、課題を乗り越えていく力や、多様性を尊重し、他者と協働して新たな価値を生み出す姿勢を育む。 | | | | | |
| 数値目標 (KPI) | 数値 (成果目標) | 2021(R03) | 2022(R04) | 2023(R05) | 2024(R06) | 2025(R07) |
| | | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 累計目標値 |
| | SDGs 学習発表会の発表クラス数 | 20 | | | | 30クラス |
| | 活動体験発表会 | 4 | | | | 5回 |
| | | | | | | |

| | |
|--------|---|
| 2.実行計画 | Do |
| 令和3年度 | |
| 事業内容 | <p>算数・数学チャレンジ、プログラミングコンテスト、飯豊町プレゼンテーションコンテスト、町内読書量コンテスト用の表彰状等の消耗品の予算あり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 算数数学難問クイズ (毎月各学校に問題を配付し、回収、丸付けを行う。年間成績優秀者に表彰を行う) 算数・数学検定 (小中学生対象。年二回実施) 英検ジュニア (小学生対象。年一回実施) SDGs 発表会 (各学校ごと実施) めざせ！いいでの物語り達人(町・地域の歴史や文化を学び、心豊かでたくましい子どもを育てるまち歩きワークショップを開催。中部地区を舞台に試行的に開催し、小学生11名が参加した) |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |
| 令和4年度 | |
| 事業内容 | <p>①社会教育課の生涯学習振興室が主導で実施している「いいでの子大したもんだプロジェクト」事業を共同で行う。子どもたちの参加率を考慮し、スポ少や町のイベントと日程が被らないように夏季休業期間に実施。調べた内容をまとめて発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○参考例 <ul style="list-style-type: none"> 白川ダムがなぜ造られたのか、ながめやま牧場が完成するまで 牛の乳しぼり、世話体験 ②「広報いいで」に大したもんだプロジェクト特集を掲載 <ul style="list-style-type: none"> 学校活動・PTA活動など、子ども達の頑張り等に焦点をあて、全町的な元気や学びに繋がる記事を情報発信する ③高校生をターゲットにした事業の検討 <ul style="list-style-type: none"> 県内、置賜地域内、町内でも、高校生の活躍がめざましい中で、「飯豊町で何かしたい」想いのある高校生が活躍できるよう、関係者で集まり検討の場を設ける |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |
| 令和5年度 | |
| 事業内容 | |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |



| 5.プロジェクトの方向性の見直し | Action |
|---|--------|
| 方向性の検討 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・今年度実施をしてみて、学校教育の中では検定や難問など、目標に向かって挑戦することができたのは有意義であったので、今後も継続させていきたい。 ・大したもんだプロジェクトの性質上、社会教育での可能性が多くあるように感じる。今後、社会教育とも協力しながら子どもたちの可能性を伸ばしていきたい。 | |
| 事務事業の見直し検討 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・飯豊町をより深く調べる・知る・飯豊町の豊かな自然により多く触れることを通じて、学力面だけではなく、飯豊町特有の生きる知恵やスキルを身に着けることができるような仕組みを作る。 ・親が知らない飯豊町のことを子どもから教えられるということは大したものだと思う。 ・飯豊町の歴史や文化に偏重せずに、豊かな自然環境の中でのびのびと学べる環境を作っていく、同時にSDG sの取り組みについても学ぶことができる仕組みを作っていく。 ・たくましさとどういったことなのかを検討していく必要がある。 ・飯豊町をより深く知ることで飯豊町への愛着心を育むことができるのではないか。 | |



| 4.現状分析 | Check |
|--------|---|
| 自己分析 | 評価できる点 飯豊町ゼロカーボンシティ推進シンポジウム2021にて、第二小学校の6年生が電気の学習を通して学んだことを発表し、地球温暖化問題についての学習の成果を発表する機会を設けることができた。 ・小中学生を対象に算数数学検定を二回実施したが、多くの児童・生徒が受検をした。(1回目は30名、2回目は27名)特に小学生の検定への関心の高さが表れた。合格率は90%で、小学校6年生で高校1年生程度の級や小学校5年生で中学2年生程度の級に合格した児童もいた。また、学校では独自に検定対策を行い、習っていないところにも挑戦する気持ちが育まれた。 ・小学生を対象に英検ジュニアを実施し、関心のある児童が力試しに受検した。(4名)小学校に英語の授業が開始されて2年目だが、英語の単語帳で一生懸命学習する児童も見られた。 ・算数数学難問クイズを毎月小学校版、中学校版を作成、配付している。教科書の内容以外でも試行錯誤しながらも取り組んでもらえている。 ・SDG s関係では、各学校取り組みを行っているが、その表現方法をGIGAスクール構想で配備されたタブレットを用い、児童生徒各々が取り組むことができた。 |
| | 改善すべき点 ・飯豊町の豊かな自然環境を活かした学びの環境を整える。 ・子どもから大人へ教えるという繋がりをつくる。 ・飯豊町への愛着心を育てる。 ・子どもたち同士みんなで協力して調べたり、他人に紹介・自慢できることがみつかることで、自信を持つことができ自己肯定感を高めることができるのではないか。 ・子どもたちが自ら実践したいと思うことを実際に実践できる体制・環境を作ることができるようにする。 ・検定関係は結果などさらにPRをして、受検者数を増やしていく必要があると考える。 ・算数・数学難問クイズなど応募してくれる児童生徒をさらに増やしていく必要がある。 ・SDG sの発表の場をコロナ禍ではあるが模索していく必要がある。一堂に会しての発表が望ましいが、厳しい場合はDVDでの披露や町のホームページでの紹介などをしていきたい。 |
| | 自己評価 A / 相当程度効果的だった |

総合戦略 主要プロジェクト 評価シート

| | | | | |
|------|-------|-----|----------|----------------|
| 評価年度 | 令和3年度 | 所管課 | 企画課総合政策室 | 町民総合センターまちづくり室 |
|------|-------|-----|----------|----------------|

| | | |
|-------------|-----|------------------------|
| No./プロジェクト名 | 2 | 豊かで活力ある地域コミュニティの形成 |
| 関連総合計画 | 重1 | 住民主体と協働によるまちづくり |
| | 1-1 | 住民が主役のまちづくり |
| | 1-2 | 性別や世代を超えて住民が活躍できる社会づくり |
| 関連総合戦略 | 3 | 町民総主役化プロジェクト |
| | 4 | いいで田園ルネサンス |

| | |
|------------|--|
| 1.プロジェクト概要 | Plan |
| 現状・背景 | <p>地域の特性や資源を生かしながら、持続的で魅力ある地域を形成していくには、行政のみならず、住民や地域の主体的な取り組みが欠かせません。</p> <p>現在は各地区別計画における住民主体の計画推進を支援し、地域の特性や課題に応じた地域づくりを推進しています。</p> |
| 課題 | <p>しかし、地域の事業が毎年同じような内容になっており、マンネリ化が否めない状況になっています。</p> <p>また、地域が主体となった事業展開が思うように進まず、「やりたいことができない人」が地区で埋没している可能性も否定できません。補助金という性質上、行政からお金がもらえるということで、「補助金づけ」のようにしている地区もあり、地域を運営していくという考えの醸成に至らないことも課題です。</p> |
| 解決策 | <p>そこで住民やNPO法人、企業や教育機関など、多様な主体が協働し、各地区が相互に連携するための支援策を整備し、NPO法人などの地域づくり団体の活動の活性化を目的として、人材組織の育成及びネットワーク化を支援します。</p> <p>また、各地区で行っている地区別計画事業の優良事例の報告会を行い、先進的事例を全体で共有することでさらなる地域づくりの深化を目指します。</p> |

| | | | | | | |
|-------------|---|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 事業目標/将来ビジョン | <ul style="list-style-type: none"> ○若い年代、女性による次世代のまちづくりの担い手の育成・創出 ○一人ひとりが主体的に考えられるまちづくり | | | | | |
| 数値目標 (KPI) | 数値 (成果目標) | 2021(R03) | 2022(R04) | 2023(R05) | 2024(R06) | 2025(R07) |
| | | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 累計目標値 |
| | 地域づくり活動報告会の報告団体数 | 2 | | | | 15団体 |
| | 地域づくり活動団体数 | 1 | | | | 5団体 |
| | 自治体ポイント制度の制度導入 | - | | | | 導入 |

| | |
|--------|--|
| 2.実行計画 | Do |
| 令和3年度 | |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域づくり推進事業（令和3年度～令和7年度） 町内9地区の地区別計画に基づく地域づくり推進に対する補助金。 令和3年度は70万円×9地区 = 6,300千円。 別途、地区間連携事業とまち活性化事業を令和3年度から新設。地区を超えた取り組みの支援を行う。 ・3月12日に「飯豊町地域づくり報告会」を開催予定。住民自治に関する基調講演と樺地区、中津川地区から事例報告を行う。 |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |
| 令和4年度 | |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> ○ワーキンググループの提案事業 ・いいではどんなもんだべ事業 住民から聞く機会の創出。今の地域に足りないもの、今後望むことを若い世代を中心にヒアリングを行う。いいで未来カフェとの連携も視野 地域で輝いている女性に協力いただき、ワークショップ等の開催をする。子育て世帯が参加しやすいように子どもスペースを設けた会場の在り方も検討する。 |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |
| 令和5年度 | |
| 事業内容 | |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |

| 5.プロジェクトの方向性の見直し | Action |
|---|--------|
| 方向性の検討 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・集う場所づくりを行う。趣味や考え方等、共感できる人たちが集う場所づくりをアシストし、つながりの強化を図る。 ・同年代で集う「大人会」も検討。共感を得られる機会の創出が期待できる。各地区の開催とし、区協議会とも連動して行いたい。 ・地区担当職員の役割について、明確にする。一部の地区では地区担当職員だけでなく、地区職員を巻き込んだ地域づくり活動を展開している。そこで、そうした地区の取組みを地区担当職員に知ってもらい、自分の地区での活動に活かしてもらおうと、話し合いの場の創出を検討。前提として、繰り返しになるが、所管課での地区担当職員の役割の明記が必要。（業務対応なのか等） ・町外の職員が半数を占める時代になっている。地域を知ってもらうことが今後大切になってくるのではないか。現場に出る機会がないのであれば、地区担当職員という職務を有効活用できるよう検討する。 | |
| 事務事業の見直し検討 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・地域づくり推進事業について、活動優良地区を決め、発表を行ってもらう。自分の地区も真似したい、よりよくなってほしいという気概をもってもらうことで、地域活動のマンネリ化打破を図る。 ・～をする場づくりだけでなく、聞く機会も持ちたい。行政の独りよがりにならないよう、住民の意見を反映したコミュニティ生成を行う。 | |



| 4.現状分析 | | Check |
|--------|--------|---|
| 自己分析 | 評価できる点 | ・地域づくり推進事業についてマンネリ化は否めないが、地域活動の原動力になっているなど、一定の効果はある。 |
| | 改善すべき点 | <ul style="list-style-type: none"> ・次世代の地域の担い手の育成が急務。同じ人ばかりが地域活動に参加 ・集う場所がない。他の人が頑張っているから、自分も、となる仕組みづくりが必要。 ・地域の核となる活動拠点を整備するべき。公民館をもう少し若い人たちに馴染みのある場所に変えていく必要がある。 ・世代間の地域づくりのバトンを円滑に渡せるよう、アシストする必要がある。 |
| | 自己評価 | B / 効果はあった |

総合戦略 主要プロジェクト 評価シート

| | | | | |
|------|-------|-----|----------------|----------|
| 評価年度 | 令和3年度 | 所管課 | 町民総合センターまちづくり室 | 企画課総合政策室 |
|------|-------|-----|----------------|----------|

| | | |
|-------------|-----|--------------------|
| No./プロジェクト名 | 3 | 町民総主役化プロジェクト |
| 関連総合計画 | 重1 | 住民主体と協働によるまちづくり |
| | 重10 | 住民が輝き、職員も輝く |
| 関連総合戦略 | 1 | いいでの子、大したもんだプロジェクト |
| | 2 | 豊かで活力ある地域コミュニティの形成 |
| | 4 | いいで田園ルネサンス |

| | |
|------------|--|
| 1.プロジェクト概要 | Plan |
| 現状・背景 | <p>住民一人ひとりが生き生きと輝きながら暮らすためには、お互いを尊重しながら、自由に新たな活動やチャレンジができ、周囲はそうした活動に寛容かつ積極的に後押しする環境が必要です。そうした環境では、誰もが他者や地域のために行動できる勇気を得ることができます。</p> <p>さらには、特定の立場や属性のみならず、若者や女性、子どもたちなど、多様な主体が町や地域に関わることができる環境の確立が必要です。家庭や地域、学校、職場などのあらゆる場面で、他者と積極的に関わりながら、内発的な活動の創造を図っていくことが求められています。</p> <p>こうした「人をはぐくむ」取り組みを推進することで、郷土や地域への愛着を感じる住民意識の醸成を図ることができます。様々な分野で町や地域に貢献したいという住民の意欲を生かすための制度や環境を整え、住民のまちづくり・地域づくりへの参画をさらに推進していきます。</p> |
| 課題 | <p>従来の「公」領域と「私」領域の中間にある、「共(コモン)」空間での関わり希薄化が深刻となっております。こうした「共」領域が担ってきた地域での支え合いや地域の課題解決機能が、個人主義化の進展や価値観の多様化などの要因によって、「共」領域が果たすべき本来の機能が発揮できなくなっています。</p> <p>さらには、「共」領域に関わる住民は、特定の性別、年代に集中しており、若者や女性、子どもなど多様な立場や属性による、主体性を持った関係性の構築や内発的な活動につながっていません。</p> |
| 解決策 | <p>■住民が「わくわく、わいわい、居心地よく」過ごせる空間デザインの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が、町や自分たちの住むコミュニティの一員であるという意識の希薄化 <p>→当事者意識の醸成、自分事化への転換</p> <ul style="list-style-type: none"> 職場や家庭以外の「場」づくり、居場所づくり、サードプレイスの創出 <p>→仲間づくり、横のネットワーク、地域やコミュニティに関わるきっかけづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもからお年寄りまで、誰もが生き生きと自己実現できる機会や舞台の構築 <p>→総活躍社会、誰も取り残さない、誰もが輝ける町・地域の実現</p> |

| | | | | | | |
|-------------|--|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 事業目標/将来ビジョン | 「共」領域の関係性を再構築するため、若者や女性、子どもたちなど多様な主体が、家庭や学校・職場以外に、関わることのできる「場」を創出し、他者との関わりを通じて、内発的かつ創造的な行動を促し、誰もが主役になれる町・地域を目指す。 | | | | | |
| 数値目標 (KPI) | 数値 (成果目標) | 2021(R03) | 2022(R04) | 2023(R05) | 2024(R06) | 2025(R07) |
| | | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 累計目標値 |
| | 町みらいミーティングの参加者数 | 30名 | | | | 200名 |
| | 地域づくり推進事業 (全町採択数) | 1件 | | | | 10件 |
| | 振興審議会等における公募委員の割合 | 10% | | | | 20% |

| | |
|--------|---|
| 2.実行計画 | Do |
| 令和3年度 | |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> いいで未来カフェ2021の開催 地域づくり推進事業 (全町採、地区間連携採、地区別計画推進採) の実施 地域づくり報告会の開催 いいで未来マルシェなど、新しい担い手による活動発表の場づくり <p>○ワーキンググループの提案</p> <ul style="list-style-type: none"> 人々が集まりやすい居場所づくり、空間づくりの検討 多様な主体が参画、発言しやすい環境づくり |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |
| 令和4年度 | |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> いいで未来カフェ2022の開催 地域づくり推進事業 (全町採、地区間連携採、地区別計画推進採) の実施 地域づくり活動報告会の開催 こども議会、少年 (中学生・高校生) 議会の開催 <p>○ワーキンググループの提案</p> <ul style="list-style-type: none"> 居場所づくり (サードプレイス) の創出 趣味のサークル、クラフト教室などからのゆるやかな横のネットワーク構築事業 町民モニター制度の運用 |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |
| 令和5年度 | |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> いいで未来カフェ2023の開催 地域づくり推進事業 (全町採、地区間連携採、地区別計画推進採) の実施 地域づくり活動報告会の開催 こども議会、少年 (中学生・高校生) 議会の開催 <p>○ワーキンググループの提案</p> <ul style="list-style-type: none"> 山形大学と連携したリカレント・リスキリング教育の推進、実践 居場所づくり (サードプレイス) の創出 趣味のサークル、クラフト教室などからのゆるやかな横のネットワーク構築事業 町民モニター制度の運用 |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |

| 5.プロジェクトの方向性の見直し | Action |
|---|--------|
| 方向性の検討 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 子どもや若者・女性などの次代の担い手を育成し、自分の興味・関心があることを一緒にやってみる「仲間づくり」や仲間となる横のネットワークを作っていくことで、「居場所」づくりにつなげていく 職場や家庭以外の居場所（サードプレイス）づくりにより、他者との関係性の中で自分が生きているという自覚を促していく。また、性別や年代を超えた多世代の多様な居場所づくりを目指す 他者との関係性を意識することで、自分が住む地域や他者が意味ある存在となり、自分が地域のコミュニティの一員であるという当事者性の認知につながる。その上で、私たち誰もが、この町や地域で生き生きと自己実現でき、誰も取り残さない、みんなが輝ける町・地域の実現を目指していく 自分のやりたいこと、実現したいことが応援され、後押しされる。そうした雰囲気や土壌を地域や行政が一体となって醸成していき、住民が輝くまちづくりの基盤を整える 個々の特性や関わり方に応じた多様性を肯定し、相互の交流から価値が創造される町・地域を目指す | |
| 事務事業の見直し検討 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 他者との関係性を意識するための手法の検討 子どもや若者・女性など、多様な主体が地域や町に参画する社会を目指す 多様な関係性から生まれる内発的な取り組みに対する支援 | |



| 4.現状分析 | | Check |
|--------|--------|---|
| 自己分析 | 評価できる点 | <ul style="list-style-type: none"> 地域づくり推進事業の成果報告会を開催し、地域づくりの事例共有や先進事例の学びを通じて、地域課題の解決や地域活性化に繋げている 「いいで未来カフェ」において、女性や若者など多様な主体によるアイデアの創出と実践に向けたアクションを後押ししている まちづくりNPO法人など、行政以外による居場所づくりをきっかけとした、コミュニティの関係性の再構築への取り組みが見られる いいで未来マルシェなど、町民の自由で多様な活動や自己表現の機会の場が存在している |
| | 改善すべき点 | <ul style="list-style-type: none"> 女性や若者・子どもなど、多様な住民の意見を反映した、透明性の高い政策形成を図っていくためのプロセスの構築 地域づくりに関わる町民の実践的取組に対するさらなる支援策の展開、戦略的スキームの構築 居場所づくり・場づくりから、持続的な地域・町づくりに向けた戦略の構築 地域づくりの拠点となる地区まちづくりセンター「わいわい わくわく創造機能」の創出 自由なアイデアや提案が許容される寛容な雰囲気の醸成 |
| | 自己評価 | B / 効果はあった |



総合戦略 主要プロジェクト 評価シート

| | | | | |
|------|-------|-----|----------------|--------------|
| 評価年度 | 令和3年度 | 所管課 | 町民総合センターまちづくり室 | 社会教育課生涯学習振興室 |
|------|-------|-----|----------------|--------------|

| | | |
|-------------|-------|--------------------|
| No./プロジェクト名 | 4 | いいで田園ルネサンス |
| 関連総合計画 | 重9 | いいで田園ルネサンス |
| | 1-(5) | 芸術・文化の振興 |
| 関連総合戦略 | 1 | いいでの子 大したもんだプロジェクト |
| | | |

| | |
|------------|--|
| 1.プロジェクト概要 | Plan |
| 現状・背景 | <p>本町には、多くの山々や森林、清らかな河川という雄大な自然のほか、田園や里山など農山村ならではの豊かな空間的魅力があり、長年に渡って、自然と人間が織りなす「暮らしの息吹」を育んできました。自然と共生した暮らしを体現してきた田園文化は、住民がともに助け合い、支えあいながら共同体を形成し、農山村のコミュニティと心の豊かさを育んできました。</p> <p>豊かな「暮らしの息吹」は、自然との調和とそこに住む人の丁寧な暮らし、活力ある芸能文化にも表れています。農山村の暮らしや文化、伝統や祭事を含め、私たちの身の回りのあらゆるものは、表現の発露としての「美しさ」や「芸術」とも捉えることができます。</p> <p>町の豊かな自然環境と、里山や田園といった生活空間において、あらゆる世代からの芸術・文化・スポーツなどの表現や生み出される価値を「いいで田園ルネサンス」として位置づけ、新しい視点・感性から引き出し育てる「感動創造運動」として創造・発信します。</p> |
| 課題 | <p>私たちの日常の暮らしの中にある伝統的で趣のある風景（伝統的な工法により大事にされてきた建築物や手入れされた庭園はもちろんのこと、刈り整えられた畦畔や丁寧に施された雪囲い、軒下につるされた干し柿など）をはじめとして、私たちの暮らしの周りの整えられた風景は、見るものに丁寧な暮らしの美しさを感じさせます。しかし、こうした丁寧な暮らしやその趣きは、常日頃には意識されず、その価値を認識する機会も多くありません。</p> <p>さらに、人々の文化や表現活動としての文化・芸術・スポーツを楽しむ機会は少なくなりつつあり、表現としてのこれらの人間らしい活動を誰もが自由に楽しみ、親しむことができる環境を整えることで、飯豊の暮らしの価値をどのように定義付け、発信していくかが問われています。</p> |
| 解決策 | <ul style="list-style-type: none"> ■いいでに「暮らし」を「学ぶ」、「楽しむ」、「分かち」 ・身近な農山村空間における生産・生活空間における調和の美や芸術について認識する →農山村や田園空間における豊かな環境下で、自由な感性や表現力を育み、発信する ・音楽からのまちづくりを継承しながら、多様で自由な文化・芸術・スポーツ活動の推進 →広大な山々や森林・田園、四季折々の自然と風土を背景とした、全町民参加型の文化・芸術・スポーツ活動の推進 ・子どもからお年寄りまで、誰もが生き生きと自己表現できる機会の創出 →あらゆる町民がいつでも多種多様な文化・芸術・スポーツ活動にアクセス可能なプラットフォーム基盤の構築 |

| | | | | | | |
|-------------|--|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 事業目標/将来ビジョン | <ul style="list-style-type: none"> ■いいでに「暮らし」を「再創造（ルネサンス）」していく。 農山村の暮らしや文化、伝統や祭事を含め、私たちの身の回りのあらゆるものは、自然と人間が織りなす「暮らしの息吹」の発露として、「美しさ」や「芸術」と捉えることができます。あらゆる世代の住民自身の等身大の感動・創造表現を「いいで田園ルネサンス」として発信していきます。 | | | | | |
| 数値目標（KPI） | 数値（成果目標） | 2021(R03) | 2022(R04) | 2023(R05) | 2024(R06) | 2025(R07) |
| | | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 累計目標値 |
| | 地域資源を活用した芸術・文化の創出 | - | | | | 2件 |
| | 伝統文化継承のための支援件数 | - | | | | 5件 |
| | 「いいで田園ルネサンス」フォーラム参加者数 | - | | | | 200名 |

| | |
|--------|---|
| 2.実行計画 | Do |
| 令和3年度 | |
| 事業内容 | <p>いいで田園ルネサンスの主旨である「共感を呼び起こす」、「感動を共有する」、「価値を創造する」ことを念頭に、飯豊町で暮らすことの意味や価値を「再創造（ルネサンス）」していくため、飯豊町の暮らしや歴史・伝統・文化・資源などを「学び」、「楽しむ」、「分かち」取り組みについて検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「暮らし」を「学ぶ」 ・飯豊学講座との連携検討 ・飯豊の昔語り継承事業（昔語りの映像化アーカイブ事業） ②「暮らし」を「楽しむ」 ・いいでカヌークラブ等によるカヌー体験、SUP体験、スノーシュー体験 ③「暮らし」を「分かち」 ・移住定住施策と連携しながら、飯豊の暮らしを発信する ・成人式等に合わせ、飯豊町の良さを再認識してもらう |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |
| 令和4年度 | |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・「いいで田園ルネサンス」フォーラムの開催 ・地域おこし協力隊の受け入れ ○ワーキンググループの提案 ①「暮らし」を「学ぶ」 ・いいで暮らし講座（「手わっさ講座（庭木、雪囲い、畑、漬物）」）、飯豊学講座 ・いいで暮らしまるごとワークショップ（丁寧な暮らし、地域あるあるエピソード収集） ②「暮らし」を「楽しむ」 ・いいでの美学講座（特徴的な暮らし、生き方の実践者を訪問） ③「暮らし」を「分かち」 ・週末いいでキャンププロジェクト（ソロキャンプ、グランピング、サウナキャンプ、SUPなど、都市交流人口創出事業） |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |
| 令和5年度 | |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・「いいで田園ルネサンス」フォーラムの開催 ・飯豊町町民スポーツフェスティバルの開催準備（2024年） ○ワーキンググループの提案 ①「暮らし」を「学ぶ」 ・いいで暮らし講座（「手わっさ講座（庭木、雪囲い、畑、漬物）」）、 ・いいで暮らしまるごとワークショップ（丁寧な暮らし、地域あるあるエピソード収集） ②「暮らし」を「楽しむ」 ・いいでの美学講座（特徴的な暮らし、生き方の実践者を訪問） ・「飯豊の食材マリアージュ」プロジェクト ③「暮らし」を「分かち」 ・週末いいでキャンププロジェクト（ソロキャンプ、グランピング、サウナキャンプ、SUPなど、都市交流人口創出事業） ・私の「いいで田園ルネサンス」（SNS、Instagram）アワードの開催 |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |

| 5.プロジェクトの方向性の見直し | Action |
|---|--------|
| 方向性の検討 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 共感や感動を引き起こす「表現」や「発信」の裾野をどのように広げていくか、 ・ 音楽を含めた、多様で自由な表現と創造からのまちづくり ・ 感動や心を揺さぶる感性や創造力といった豊かな心の醸成 ・ 若者・女性・子どもたちが、自分たちの町を見つめ直し、価値を考える機会を創出することでシビックプライドを醸成する | |
| 事務事業の見直し検討 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 「いいで田園ルネサンス」は、農山村の私たちの暮らしの価値を復興（ルネサンス）を目指す | |



| 4.現状分析 | | Check |
|--------|------------|--|
| 自己分析 | 評価 できる点 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 都市や町外住民など、外部の視点や視座を取入れ、価値の見える化を図っている ・ 「やっぱり飯豊で幸せになる」プロモーションビデオや昔語りのアーカイブ化など、視覚的に訴えるメディアを制作・活用している |
| | 改善 すべき点 | <ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクトの意図や主旨の言語化、住民にどう翻訳して理解してもらうか ・ 「日本で最も美しい村」連合の取り組みと合わせて、自分たちの暮らしの価値について、どのように自分事として関心を持ってもらうか ・ 個々人によって異なる「共感」と「感動」をどのように呼び起こすか ・ 既存の「表現創造運動」⇔地区文化祭等との関係性の整理 |
| | 自己評価 | B / 効果はあった |



総合戦略 主要プロジェクト 評価シート

| | | | | |
|------|-------|-----|-------------|----------------|
| 評価年度 | 令和3年度 | 所管課 | 教育総務課子育て支援室 | 健康福祉課健康医療室 |
| | | | | 町民総合センターまちづくり室 |

| | | |
|-------------|-----|--------------------|
| No./プロジェクト名 | 5 | 子育て世帯への総合的支援 |
| 関連総合計画 | 2-1 | 出産・子育て支援の拡充 |
| 関連総合戦略 | 1 | いいでの子、大したもんだプロジェクト |
| | 6 | 一人ひとりに寄り添う社会の実現 |

| | |
|------------|--|
| 1.プロジェクト概要 | Plan |
| 現状・背景 | <p>山形県は、三世帯同居率や子育て世帯の就業率が全国的にも上位で、世帯当たりの収入では全国平均を上回っています。こうした夫婦共働きのパートナーシップや、親世代と一緒にあった子育て支援が不可欠です。</p> <p>また、二世帯住宅や核家族化も進んでいます。安心して子どもを育てることができるよう、母親の心身のきめ細やかなケアをおこなうとともに、経済的にも子育てに優しい環境を構築することで、子育てをパートナーや家族だけでなく、地域一体で支えていく気運の醸成が必要です。</p> |
| 課題 | <p>保育ニーズは年々高まっており、近年は7割近くが3歳未満児から保育所等を利用しています。また、学童クラブの入所者も年々増加しており、高学年児童の利用も増えています。支援の必要な児童も増加していることから、保育の受け皿の確保が求められています。</p> <p>また、核家族化や生活スタイルの変化により、身近に頼れる人がいない子育て家庭が増加していることから、周囲から孤立することのないよう、一人ひとりに寄り添う支援を充実させる必要があります。</p> |
| 解決策 | <ul style="list-style-type: none"> ・妊婦検診や不妊治療への支援、医療費や保育料の軽減など経済的支援の継続 ・子どもの居場所づくりの推進 ・子育て家庭向けの事業の立ち上げ |

| | | | | | | |
|-------------|--|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 事業目標/将来ビジョン | <ul style="list-style-type: none"> ・保育料、医療費、不妊治療等の経済的支援 ・子どもの居場所づくりの推進 ・子育て家庭への支援拡充 | | | | | |
| 数値目標 (KPI) | 数値 (成果目標) | 2021(R03) | 2022(R04) | 2023(R05) | 2024(R06) | 2025(R07) |
| | | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 累計目標値 |
| | 不妊治療費補助事業申請件数 | 2件 | | | | 15件 |
| | 放課後子ども教室の運営 | 0か所 | | | | 5か所 |
| | 子育て親育ち教室への参加者 | 0人 | | | | 100人 |

| | |
|--------|---|
| 2.実行計画 | Do |
| 令和3年度 | |
| 事業内容 | <p>【経済的負担軽減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育料・給食費軽減事業 (子育て支援室) ・子育て支援医療制度 (住民室) ・不妊治療費助成事業 (健康医療室) ・妊婦健康診査助成事業 (健康医療室) ・産後ケア事業 (健康医療室) ・出産支援給付金事業 (子育て支援室) <p>【子どもの居場所づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学童クラブ (子育て支援室) <p>【子育て家庭への支援拡充】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飯豊町こどもみらい館 (子育て支援室) ・一時保育事業・ファミリーサポートセンター事業 (子育て支援室) ・子育て世代包括支援センター (健康医療室) |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |
| 令和4年度 | |
| 事業内容 | <p>【経済的負担軽減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て団地など住宅支援。定住につながるような事業 ・保育料無償化の拡充 <p>【子どもの居場所づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学童クラブ+放課後子ども教室+地域を巻き込んだ事業 <p>【子育て家庭への支援拡充】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てしやすい働き方の推進 (例：幼い子がいる母は希望すれば、9時～15時までの短時間勤務とし、給料差額分を補助する、など) ・父親育休取得推進 (役場から) ・「子育て」について正しい理解を深める事業 |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |
| 令和5年度 | |
| 事業内容 | 同上 |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |

| 5.プロジェクトの方向性の見直し | Action |
|--|--------|
| 方向性の検討 | |
| <p>【経済的負担軽減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済的負担軽減以外の支援が必要。定住してもらえるような仕掛けづくり。何を魅力として打ち出すか、町全体の方針を考えるべき。 ・令和4年度より、不妊治療費については、保険適用となるので、町の補助事業は廃止の予定。 <p>【子どもの居場所づくり・子育て家庭への支援拡充】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人では行けないので健康福祉課などとの連携も必要。祖父母や地域みんなで子どもを育てていくという視点が欲しい。放課後子ども教室で地域とのつながりをつくりたい。 ・事業内容の工夫も必要。参加したい、参加しやすい内容を。 ・保護者のためだけでなく、子ども自身が成長するため、生きる力を養うための取り組みも必要。 | |
| 事務事業の見直し検討 | |
| <p>【経済的負担軽減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て団地など、子育て世帯の住宅支援 <p>【子どもの居場所づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動内容について検討が必要。さまざまな体験や農業・自然とのふれあいはどうか。 ・公民館との連携。放課後子ども教室の開催。親世代にも魅力的な事業内容の設定。 <p>【子育て家庭への支援拡充】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園の行事など保護者が集まる日に講話などをおこなうのはどうか。 ・「子育て」について、理想論だけでなく正しく理解してもらう場が必要。 ・「パパとママと赤ちゃんのサロン」のように名称からも父親の育児参加推進を図る。また、子育てしやすい働き方の推進、企業への働きかけ。 ・Webで気軽に相談できるような体制づくり。 | |

| 4.現状分析 | Check | |
|--------|------------|--|
| 自己分析 | 評価 できる点 | <p>【経済的負担軽減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業内容は充実している。 <p>【子どもの居場所づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学童クラブ以外にも、公民館も子どもたちの居場所になっている。 ・手ノ子小では学校の協力により、学校終了後に地域の方との交流の時間がある。 <p>【子育て家庭への支援拡充】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の部活動など大会でも結果を残しており、子どもたちは頑張っている。さらに頑張れる環境づくりを用意してあげたい。 ・産後ケア事業を実施することで、産後間もない母子の健康状態を確認したり、子育てに対する不安感の払拭など子育て中の母親の支援を行うことができた。 |
| | 改善 すべき点 | <p>【経済的負担軽減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済的負担軽減が、出生数増加に結びついていない。 ・不妊治療の助成事業を知らなかったり事業内容に不足があり、利用していない方がいる可能性もある。また、子供を授かる前に、「子育て」について正しく理解してもらう必要がある。無計画な出産は虐待やネグレクト、養育困難につながりかねない。 <p>【子どもの居場所づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響により、公民館や児童館の利用に制限がかかっている。 ・親世代が「参加したい」と思うような事業を設定すべき。 ・放課後子ども教室の実施にあたっては、地区公民館と学校であり方について共通認識が必要。 <p>【子育て家庭への支援拡充】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日曜も遊べる屋内施設が近くにない。特に乳児のうちは時間を指定されても参加しにくい。 ・忙しい保護者も参加しやすいような工夫が必要。父親育児参加を推進するための取り組みや、子育て世代の勤務について企業からの理解と協力の呼びかけ。 |
| | 自己評価 | B / 効果はあった |

総合戦略 主要プロジェクト 評価シート

| | | | |
|------|-------|-----|----------|
| 評価年度 | 令和3年度 | 所管課 | 健康福祉課福祉室 |
|------|-------|-----|----------|

| | | |
|-------------|-----|---------------------|
| No./プロジェクト名 | 6 | 一人ひとりに寄り添う社会の実現 |
| 関連総合計画 | 2-2 | 誰もが安心して暮らし活躍するための支援 |
| 関連総合戦略 | 6 | ひとり一人に寄り添う社会の実現 |

| 1.プロジェクト概要 | Plan |
|------------|--|
| 現状・背景 | 暮らしを営む上では自助だけでなく、周囲の助けが必要な人たちも存在しています。子供たちや高齢者いたり、障がいをもっているとしても、誰もがこの町で安心して暮らせることが重要です。 |
| 課題 | 本町の人口の3割超は65歳以上であり、今後も高齢化率が高止まり傾向にあることから、高齢者の活躍を支える仕組みづくりを行っていく必要があります。 また、近年は大規模災害の増加、新型コロナウイルス感染症のような新たなリスクの発生、さらには社会情勢の変化によって、病気や事故、失業等で誰もが経済的な困窮等に陥る可能性があり、過労、育児や介護疲れ、いじめや孤立などの様々な要因により、最悪の場合は自殺に至ることもあります。 |
| 解決策 | 誰もが住み慣れたこの町で安心して暮らせるよう、子供たち、高齢者や障がい者等支援の必要な人たちに適切な支援を行うとともに、公助、共助、互助による地域支え合いの仕組みづくりを行います。また、経済的な困窮や様々な課題を抱えた場合に相談できる体制を整備し、平穩に暮らすことができるようにセーフティネットを拡充していきます。 |

| | | | | | | |
|-------------|-----------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 事業目標/将来ビジョン | 誰もが安心して飯豊町で暮らすことができる | | | | | |
| 数値目標 (KPI) | 数値 (成果目標) | 2021(R03) | 2022(R04) | 2023(R05) | 2024(R06) | 2025(R07) |
| | | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 累計目標値 |
| | 一元的な困りごと相談窓口の設置 | 1箇所 | | | | 1か所 |
| | 成年後見センターの設置 | R4設置予定 | | | | 1か所 |
| | 小中学校での認知症サポーター養成講座の開催 | 0校 | | | | 3校 |

| | | |
|--------|--|----|
| 2.実行計画 | | Do |
| 令和3年度 | | |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> 一元的な困りごと相談窓口の設置・・・令和3年度より「福祉総合相談窓口」として社会福祉協議会に設置。ライフステージ・サポート体制推進会議の開催。 成年後見センターの設置・・・置賜圏域3市5町で設立予定 (R4年度) 平成28年度に手ノ子小学校の先生を対象に、平成29年度に添川小学校5,6年生17名対象に実施している。町内に認知症サポーターは699名、キャラバンメイトは16名いる。 認知症サポーターフォローアップ研修を3回開催。 地域の高齢者の居場所のサポートをされている方など9名を対象に、認知症の方理解、地域で認知症の方を見守るポイント、認知症サポーターの役割や取り組みについて、グループワークを行いながら具体的に学んだ。 | |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 | |
| 令和4年度 | | |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> 小中学校での認知症サポーター養成講座の開催・・・夏～秋にかけて校長会に依頼 (秋に次年度のカリキュラム決まるのでそれまでに) 役場内総合的な相談窓口の実用化にむけての検討 | |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 | |
| 令和5年度 | | |
| 事業内容 | | |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 | |

| 5.プロジェクトの方向性の見直し | Action |
|---|--------|
| 方向性の検討 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 一元的な困りごと相談窓口の設置 成年後見センターの設置 小中学校での認知症サポーター養成講座の開催 上記3事業について、事業継続、新設準備に取り組む。事業内容について、下記の改善策あり。 <ul style="list-style-type: none"> 庁内調整委員より、本シートは事業の検証のみになっているとの指摘あり。今後、実務で経験したことを取り入れながら、他部署との連携を視野にいれた事業を検討する必要がある。 以前、役場に総合窓口があったので、同様の窓口を復活できれば良いのではないかと。例えば、若手が半日ずつ交代で対応し、関係課につなぐ。社協の相談窓口とは別に役場としてもあってもよいと考える。最初の道筋を丁寧につけることによって、うまくいく事例もあると思う。予算がなくても自分たちの手でできることを考えていく必要がある。 | |
| 事務事業の見直し検討 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 一元的な困りごと相談窓口の設置・・・相談しやすい雰囲気づくりのため、相談内容の統計データをもらい、解決に至った事例を公表する。 成年後見センターの設置・・・診断書がないと後見人になれないが、受診につながらないケースも多い。さらに、手続き上時間がかかる。従来よりも円滑に申請ができるよう、関係機関と協議。成年後見制度について、一般的に知られていないため、既存のサロンなどで制度の周知（制度DVDの貸し出し等）を行うとともに、センター新設のPRも兼ねる。 小中学校での認知症サポーター養成講座の開催・・・すでに699名のサポーターがいるので、認知症サポーターの役割などを周知する。認知症の理解のため、認知症の疑似体験をする。 相談窓口まで出向けない人（移動手段がない方、心理的理由）の対応 成年後見センターは、利用のハードルが高く、設置したからといってハードルが下がるわけではない。 小中学校での認知症サポーター養成講座について、全校で実施できる体制を整える必要がある。小中学生については、まずは認知症に対する意識付けという認識で行う。すでに認知症サポーターとなっている方の、講座終了後の活躍の場についても検討する。 | |

| 4.現状分析 | Check | |
|--------|------------|---|
| 自己分析 | 評価できる点 | <ul style="list-style-type: none"> 一元的な困りごと相談窓口の設置・・・誰に相談したらよいかわからない事例の窓口となってもらえるので、広く活用できる。 成年後見センターの設置・・・より身近に制度を利用できるようになる。 小中学校での認知症サポーター養成講座の開催・・・児童・生徒が学ぶことで、地域での認知症の見守り、認知症の理解につながる。 |
| | 改善すべき点 | <ul style="list-style-type: none"> 一元的な困りごと相談窓口の設置・・・相談しやすい雰囲気づくり。 成年後見センターの設置・・・診断書がないと後見人になれないが、受診につながらないケースも多い。さらに、手続き上時間がかかる。成年後見制度について、一般的に周知不足である。 小中学校での認知症サポーター養成講座の開催・・・すでに699名のサポーターがいるので、認知症サポーターの役割などの周知を検討。 |
| 自己評価 | B / 効果はあった | |



総合戦略 主要プロジェクト 評価シート

| | | | | |
|------|-------|-----|------------|-------|
| 評価年度 | 令和3年度 | 所管課 | 健康福祉課健康医療室 | 社会教育課 |
|------|-------|-----|------------|-------|

| | | |
|-------------|-----|----------------------|
| No./プロジェクト名 | 7 | 町民一人ひとりの主体的な健康づくりの推進 |
| 関連総合計画 | 2-3 | 生涯を通して楽しめるスポーツ活動の推進 |
| 関連総合戦略 | 18 | デジタルを活用した強固な社会基盤の確立 |

| | |
|------------|---|
| 1.プロジェクト概要 | Plan |
| 現状・背景 | 健康づくりは「自分の健康は自分で守る」という意識が欠かせません。健康の保持・増進に向けた食事・運動・疾病予防といった生活習慣のあり方について、地域との連携により主体的に実践する機会の充実を図っています。 |
| 課題 | 参加者は高齢者が多く、働き盛りの年代や若者、子どもが少ない。老若男女問わず、幅広い年代の方が参加できる体制づくりが必要。 |
| 解決策 | 事業に参加したことの結果の評価検証が必要。また、公民館や体育協会と連携し参加者の拡充を図ること、また町内企業への参加依頼などを進めていく必要がある。 |

| | | | | | | |
|----------------------|--|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 事業目標/将来ビジョン | 生活習慣病を予防するために健康の保持・増進の意識付け。 スマートフォンなどのデジタル機器を活用 | | | | | |
| 数値目標 (KPI) | 数値 (成果目標) | 2021(R03) | 2022(R04) | 2023(R05) | 2024(R06) | 2025(R07) |
| | | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 累計目標値 |
| | アプリを活用した健康指導の実施件数 | 0 | | | | 100件 |
| | 健康・元気で町ポイント事業参加者数 | 152 | | | | 1,100件 |
| | 健康・元気で町ポイント事業カード配布数 | 1,564 | | | | 4,500枚 |
| 自然環境を生かしたスポーツイベントの開催 | 4回 | | | | 10回 | |

| | |
|--------|---|
| 2.実行計画 | Do |
| 令和3年度 | |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> 健康・元気で町ポイント事業 事業費500千円 50P貯まった方に賞品の贈呈。賞品は数種類あり選択制。 生活習慣改善支援事業（健康教室の実施） 事業費 276千円 10回×2コース 白川ダムマラソン大会の開催 クライミング教室の開催 ウォーキング教室の開催 西部ウォーキングの開催 |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |
| 令和4年度 | |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> 健康・元気で町ポイント事業 生活習慣改善支援事業 <p>〇ワーキンググループでの提案</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康関連アプリを用いた健康管理の推進 スマートウォッチ100千円 通信運搬費12千円 消耗品費30千円 |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |
| 令和5年度 | |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> 健康・元気で町ポイント事業 生活習慣改善支援事業 <p>〇ワーキンググループでの提案</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康関連アプリを用いた健康管理の推進 264千円 <p>〇令和6年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康関連アプリを用いた健康管理の推進 386千円 自然環境を生かしたスポーツイベントの開催 110千円 |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |

| 5.プロジェクトの方向性の見直し | Action |
|--|--|
| 方向性の検討 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・若年層や親子で参加しやすいように、公民館事業（ウォーキングマップの活用など）との連携を強化する。 ・参加しやすい体制づくりのために、公民館事業との連携を図る。 ・年代問わずどんな方でも参加できるよう、事業の拡大が必要だと思う。スポーツセンターや地区公民館、観光協会との連携などもさらに幅広い事業を展開していく必要がある。 ・ポイントを集めることがメインにならないように。なぜ体を動かすことが必要なのか、まだまだ意識付けしていく必要があると感じる。 ・アプリの活用は高齢者の多い飯豊町では難しい。まずは、健康に関する情報発信や、健診結果の分析等でITを活用していくことを検討していく。 | |
| 事務事業の見直し検討 | |
| 外部組織との連携を強化する。 | ・参加できる教室等の把握と情報共有が必要かと思われる。社会教育課と健康福祉課でそれぞれ行われる事業についてすり合わせしていくことも必要。 |



| 4.現状分析 | Check | |
|--------|------------|---|
| 自己分析 | 評価できる点 | 賞品のバリエーションがあるのがよい。 新型コロナウイルスの感染が懸念される中、様々な対策を講じながら事業を継続してきたことは評価できる。 |
| | 改善すべき点 | <ul style="list-style-type: none"> ・どんな賞品をもらえるか紹介したらよいのではないか。 ・事業の周知が全ての年代に行き届いていないのではないか。キララや公民館事業へ参加した方々にも更なる周知を。 ・商品をPRしてみる。 ・ポイント事業でポイント獲得を目指すためには、現在町で実施している事業だけではバリエーションが少なく、特定の施設を定期的にご利用する方だけがポイント取得をしている傾向がある。 |
| 自己評価 | B / 効果はあった | |



総合戦略 主要プロジェクト 評価シート

| | | | | |
|------|-------|-----|----------|-------------|
| 評価年度 | 令和3年度 | 所管課 | 企画課総合政策室 | 教育総務課子育て支援室 |
|------|-------|-----|----------|-------------|

| | | |
|-------------|-----|---------------------|
| No./プロジェクト名 | 8 | 結婚の希望の後押し支援 |
| 関連総合計画 | 2-1 | 出産・子育て支援の充実 |
| | 3-2 | 多様なライフスタイルの実現に向けた支援 |
| | 5-5 | 多様な働き方の推進 |
| 関連総合戦略 | 5 | 子育て世帯への総合的支援 |
| | | |

| | |
|------------|--|
| 1.プロジェクト概要 | Plan |
| 現状・背景 | <p>当町の人口は令和3年5月末で6,686人。社会減と自然減を合わせて、近年では毎年140人の人口が減り続けている。高齢などによる死亡数が増える一方、出生数は年々減り、自然減は今後も拡大することが懸念される。出生数の減少の要因の一つが未婚率の上昇である。当町の未婚率は20代～40代の男性で50%、女性で33.8%（平成27年国勢調査）と高く、この数値を改善することが出生数減の課題にプラスの効果をもたらすと考えられる。</p> |
| 課題 | <p>多様な生き方が尊重されること、結婚に対する個人の人生観は当然に許容され、他から押し付けられるものではない。一方で、結婚を希望しているにもかかわらず、経済力への不安や自分への自信のなさ、異性とのコミュニケーションへの苦手意識などが原因で婚活に踏み出せない未婚者もいる。恋愛に関しては男性の6割、女性の7割が「相手からのアプローチ待ち」という調査結果がある。このことから、ただ待っていてもパートナーに出会える可能性は低く、結婚を希望するのであれば積極的に出会いの機会を作ることが望ましいが、上記のような理由で婚活に積極的になれないことが多い。また、結婚、出産という人生の選択肢はデリケートな部分も多々あり、第三者が良かれと思ったアドバイスも未婚者にとっては「ありがた迷惑」「余計なお世話」果ては「セクハラ」「パワハラ」となり、結婚に対するネガティブな感情を生みかねないという課題がある。</p> |
| 解決策 | <p>中学生や高校生など、早い段階から結婚に対するポジティブなイメージを醸成し、共働きや家族単位で一定の所得を確保し、家族で子育てをしていく生活スタイルを発信していく。また、婚活に苦手意識を持つ結婚希望者には、自分の理想の将来像に向かって行動する力や異性とのコミュニケーションなどについて学ぶセミナーを通じて苦手意識を克服すること、また、企業間交流や他自治体と連携して婚活イベントを開催するなど、多様な出会いの機会を提供する。さらに、若者の所得向上やキャリア形成支援、経済的負担の少ない居住環境の整備など、若年層にとって大きなハードルとなりうる経済的基盤の安定化と結婚新生活への支援を実施する。</p> |

| | | | | | | |
|-------------|--|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 事業目標/将来ビジョン | <ul style="list-style-type: none"> ・広域連携の婚活サポート支援 ・企業等と連携したスキルアップ研修等を通じた出会いの創出 ・親世代や地域単位に対する出会いや結婚の支援を創出する機運の醸成 | | | | | |
| 数値目標 (KPI) | 数値 (成果目標) | 2021(R03) | 2022(R04) | 2023(R05) | 2024(R06) | 2025(R07) |
| | | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 累計目標値 |
| | 自分力向上プログラム参加人数 | 11人 | | | | 50人 |
| | 連携企業数 | 0社 | | | | 5社 |
| | | | | | | |

| | |
|--------|--|
| 2.実行計画 | Do |
| 令和3年度 | |
| 事業内容 | <p>いいで未来サポート隊事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「カヌー de 恋活・友達づくり」令和3年9月20日（月・祝）実施 22名参加（男性11名、女性11名） いいでカヌークラブの協力のもと、カヌーを楽しみながら未婚男女の交流をはかった。連絡先交換は5組であった。 ・「飯豊町婚活・自分力UPセミナー」令和3年9月26日（土）、10月31日（土）実施 参加者11名（男性7名、女性4名） 婚活に苦手意識を持つ方を対象に、自分が希望する将来像、自分の長所や核となっている部分に目を向けることで婚活に踏み出すきっかけを持つための講座。2回の講座、ワークショップ等で開催した。 ・「親のための婚活応援セミナー」令和3年11月14日（日）実施 参加者 9名 未婚の子を持つ親や家族を対象に、親・家族だからこそできる婚活支援や、親世代と異なる婚活事情や結婚観などについて、恋愛カウンセラーを講師に迎えて学んだ。 ・「X'mas de 婚活パーティー」事前講座 令和3年12月8日（水） イベント12月12日（日） 参加者31名（男性18名、女性13名） クリスマスをテーマに婚活イベントを開催。コミュニケーション講座を事前に開催し、イベント当日も参加者同士がコミュニケーションを取りやすいワークを入れることで交流を促した。カップリングは7組であった。 ・「スノーシュー de 恋活・友達づくり」令和4年3月6日（土）実施 <p>結婚新生活支援事業補助金（令和4年度継続）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結婚を機に町内で新生活をスタートする夫婦に対し、住居費、引っ越し費用等の一部を支援（年齢、所得要件あり、最大30万円）※内閣府の地域少子化対策重点推進交付金事業申請実績1件 |
| 予算 | 350万円 内、WG提案事業に係る予算 |
| 令和4年度 | |
| 事業内容 | <p>婚活支援事業（仮）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・婚活サポーターによる個別支援（未婚者の登録制でのお相手探し、お見合いのセッティング） ・婚活サポートセンター事業（婚活関連の情報収集・発信、相談受付、婚活サポーター活動の中枢） ・婚活イベント、セミナー等の開催 <p>〇ワーキンググループの提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・婚活イベント参加費の援助（町内在住者が婚活イベントに参加した際の参加費の一部支援、町外で開催されたイベントも支援対象とする） 参加費の半額（1,000円未満切り捨て、上限2,000円）×50件＝100,000円 ・マッチングシステム登録料補助 登録料の半額（1,000円未満切り捨て、上限5,000円）×20件＝100,000円 ・異業種交流会・企業セミナーの開催 ・結婚祝いの拡充 ・1.5成人式（30歳の集まり）や若者団体が主催するお祭り・イベントへの助成 ・婚活イベントはアウトドア、カルチャー（例：漫画、陶芸）、料理など、婚活色より「参加者同士が一緒に楽しめる企画」とする。 |
| 予算 | 200万円 内、WG提案事業に係る予算 |
| 令和5年度 | |
| 事業内容 | <p>〇ワーキンググループの提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縁結びツアー（パワースポットめぐりなど）、大人の修学旅行（自炊・肝試しなど）の実施 |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |



| 5.プロジェクトの方向性の見直し | Action |
|---|--------|
| 方向性の検討 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・いいで未来サポート隊事業が今年度限りとなる可能性があるが、今後も少子化対策に継続して取り組む必要がある。継続できる仕組みづくり。 ・無理やり参加させても結果はついてこない ・参加者を無理やり集めると、男女のモチベーションの違いで結果が出ない婚活イベントになる ・嫌いなこと、苦手なことが合う人の方がうまくいく。 ・地元イベントに出たくない。知っている人に会いたくない。 ・婚活というワードにポジティブなイメージない。焦ってる感が見えるのは嫌。 ・この先数年は新型コロナウイルス感染症に対応した婚活支援を考える必要がある。 ・婚姻を契機とした補助が手厚いと、飯豊町で結婚しようかな、飯豊町に住もうかなという気持ちになる。 | |
| 事務事業の見直し検討 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの婚活サポーター活動始動しようとしている。 (山形県全体の仲間組織『やまがた縁結び隊』との連動) ・未婚者限定でなく、既婚者 + 未婚者が参加し、未婚者同士の出会いを創出できるようなイベント ・婚活目的でなく、同じ年代の人と出会えるような仕組みづくり (ex/〇〇年生まれの会、異業種交流会) ・デンソー山形など、企業と連携した取り組み ・友人の紹介がきっかけになることも多い。自分に合った人を紹介してくれるという点では仲人 (名前は多少重い) が活動もやってみる価値はある。 ・婚活だけでなく目的も併せ持った婚活イベント開催 (アクティビティ、食、学び…) ・婚活イベント参加費の援助 ・マッチングシステム登録料補助 ・結婚祝い (商品券3万円分) の増額。 ・住宅取得奨励における「2世帯住宅」の補助枠を作る ・新型コロナウイルス感染症に対応した婚活支援 (マッチングシステムの活用、大人数集會型でない婚活イベントなど) ・置賜の市町村が協力して企画するなど、広域の取組 | |

| 4.現状分析 | Check |
|--------|---|
| 自己分析 | <p>評価できる点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飯豊町のように人口が少ない町で、町長を筆頭に各種団体の代表が少子化・未婚の課題解決のため積極的に取り組みをしているところ。 ・未婚者本人やその親世代の婚活への意識醸成を促す事業に取り組むことで、通常はマッチング率が低いといわれる婚活イベントでもマッチングにつながりやすいこと。また、マッチングしないとしても参加者のその後の婚活にプラスとなる意識付けをできること。 ・町で出会いの機会を作ろうとしていること |
| | <p>改善すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者不足 <ul style="list-style-type: none"> → ○参加者が少ない原因を克服する必要がある <ul style="list-style-type: none"> ・『恥ずかしい』気持ちに対しては、言い訳を作れる状況を作ってあげる ・マッチングしない体験から、婚活イベントに後ろ向きになることもある ①「参加しろと言われたから来た」と言えるような、半ば強制的に参加させる仕組み (〇〇歳～〇〇歳、企業間交流、30歳の1.5成人式) ②参加することでメリットがある仕組み (抽選で米沢牛が当たる、など。抽選には異性とお話して抽選券をもらう、3枚で1回抽選) ③「婚活目的でなく、企画内容に関心があったから来た」と言える企画 <ul style="list-style-type: none"> ○参加者が楽しめる目的の設定 「食」「アクティビティ」「カルチャー (例：漫画・陶芸など)」 ○ださくない、おしゃれな演出 (←町の公民館の婚活イベントでは雰囲気出ない) ④若者が企画するお祭りキャンプなどを助成などで推進する。 ⑤参加者設定を20歳～49歳など広くせず、10歳区切りくらいにすることで、異性の年齢層も分かり参加しやすくなるのではないか。 |
| 自己評価 | B / 効果はあった |

総合戦略 主要プロジェクト 評価シート

| | | | |
|------|-------|-----|----------|
| 評価年度 | 令和3年度 | 所管課 | 企画課総合政策室 |
|------|-------|-----|----------|

| | | |
|-------------|-----|---------------------|
| No./プロジェクト名 | 9 | 移住・定住、田園回帰の加速化 |
| 関連総合計画 | 3-2 | 多様なライフスタイルの実現に向けた支援 |
| | 3-3 | 総合的な住宅対策の推進 |
| | 5-5 | 多様な働き方の推進 |
| 関連総合戦略 | 10 | 確かで柔軟な住環境整備 |
| | 12 | 人をつなぐ、心をつなぐ交流と発信 |

| | |
|------------|---|
| 1.プロジェクト概要 | Plan |
| 現状・背景 | <p>当町の人口は令和3年5月末で6,686人。社会減と自然減を合わせて、近年では毎年140人の人口が減り続けている。高齢などによる死亡数が増える一方、出生数は年々減り、自然減は今後も拡大することが懸念される。人口減の要因として自然減と同じくらい大きいのが社会減である。社会減は町外への転出が転入を上回ることを指し、特に生産年齢であり、これからの町の担い手となるべき若年層の転出が後を絶たない。</p> |
| 課題 | <p>ここ数年、町成人式で実施しているアンケートでは、「飯豊に住み続けたい、飯豊に戻りたい」と回答する方が多い一方、「仕事がない」「店舗が少なく不便」といった課題が定住にネガティブな影響を与えていることがうかがえる。また、当町には賃貸物件が少ないことから、移住を検討している方の住居の面で条件が合わず移住につながらないという課題もある。</p> |
| 解決策 | <p>上記の課題がある一方で、恵まれた自然環境、地域に根差した文化、期間産業である農業に魅力を感じ、移住を検討する方もいる。新型コロナウイルスの感染拡大により、都会への人口の一極集中の危うさが露呈し、地方暮らしへの関心が高まっている。この機を逃さず、当町における暮らしや支援について情報発信をし、当町で叶える自然と共にある暮らし、多様で魅力的な暮らし方、新しい働き方の実現を支援することで移住者を獲得する。また、若者や女性の感性を活かし、やりがいを持って働くことができる、食やまちづくり、観光等の特色ある事業やスモール・ビジネスなどの起業、創業を支援する。加えて、二地域居住やワーケーションの拡大に向けて、空き家活用等による住まいや働く場の充実、移動に関する支援など受入環境の整備を促進する。こうした外からの動きと、継続的な定住支援により、町内の若者が自分の町の魅力を再認識することを促し定住化を促進していく。</p> |

| | | | | | | |
|-------------|---|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 事業目標/将来ビジョン | <ul style="list-style-type: none"> 多様なライフスタイルの実践者の事例や関連する支援制度などの効果的な発信 二地域居住やワーケーション、パラレルワークなど、多様な働き方、暮らし方への支援 若者や女性の感性を活かした起業に対する支援 | | | | | |
| 数値目標 (KPI) | 数値 (成果目標) | 2021(R03) | 2022(R04) | 2023(R05) | 2024(R06) | 2025(R07) |
| | | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 累計目標値 |
| | テレワーク等の拠点整備 | 0 | | | | 1か所 |
| | ビジネスコンテストの開催 | 0 | | | | 1回/年 |

| | |
|--------|---|
| 2.実行計画 | Do |
| 令和3年度 | |
| 事業内容 | <p>移住定住促進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住相談会への出展 令和3年10月17日(日)ふるさと回帰フェア 相談件数15件 令和3年11月28日(日)らすべ山形!移住交流フェア 相談件数 5件 令和4年1月9日(日)東北U・Iターン大相談会 相談件数2件 令和4年1月23日(日)置賜地域ハッピーライフカフェ 相談件数0件(オンライン・町の紹介のみ) ・山形県移住者向け食の支援事業 支援実績 単身5世帯、2人以上世帯1世帯 ・移住支援金(東京より町内登録事業に就業した方への支援金) 支援実績 2件(単身世帯、2人以上世帯各1件) <p>飯豊で幸せになる条例による各種奨励(令和4年度継続) 奨励件数(見込み含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> 住宅取得奨励 17件 出産祝い 27件 新婚・子育て世帯・40歳以下就業世帯への賃貸助成 4件 入学祝い、卒業祝い 168件 結婚祝い 9件 |
| 予算 | 16,737千円 内、WG提案事業に係る予算 |
| 令和4年度 | |
| 事業内容 | <p>移住定住促進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住相談会への出展・・・614千円 ・移住体験ツアーの開催・・・2,000千円 ・山形県移住者向け食の支援事業・・・123千円 ・移住支援金(東京より町内登録事業に就業した方への支援金)・・・(2件で)2,000千円 <p>〇ワーキンググループでの提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住ツアーの内容の見直し(既存事業の内容転換) ※新規就農の回、起業の回など、ターゲットを絞り、飯豊町で住む・働くことを考えられるような内容(農地・空き家・生活環境の紹介など)を盛り込む。 ・テレワーク拠点設備の整備(空き家リノベーション事業との共同)・・・2,000千円 ・除雪・雪囲い講習会の開催・・・100千円 |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |
| 令和5年度 | |
| 事業内容 | <p>〇ワーキンググループでの提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住ツアーの内容の見直し(既存事業の内容転換) ・テレワーク拠点設備の整備(空き家リノベーション事業との共同)・・・2,000千円 ・移住者向け賃貸物件の整備 |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |

| 5.プロジェクトの方向性の見直し | Action |
|--|--------|
| 方向性の検討 | |
| <p>○地方移住への関心が高まっている今日、より移住指向の強い方々に訴求するような事業を検討する必要がある。令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大により事業を中止した。今年度は新型コロナウイルスの状況を踏まえながらできること、移住者獲得につながることを検討中。</p> <p>○飯豊で幸せになる条例では、住宅取得、出産祝いなど人生の節目における奨励を行っている。令和2年度までの「ふるさと定住いいですね条例」から、奨励内容を一部変更し、どちらかという移住者に手厚い内容であったものを「町にずっと住んでいる方」への奨励を底上げして令和3年度より施行している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本気度高い人、現状の飯豊町に興味を持ってくれる人を対象にする企画にするために、観光ツアーとの差別化 ・何か爆弾的な取り組みが必要では。(ex/高畠町公式HP「尖ってる町No.1」、少額多数でなくドーンと移住支援金を出す) ・農業押し移住施策、住環境PR ・住宅取得奨励は、もらえれば嬉しいが、居住地の選択にあたり意思を左右するほどの効果はないと思われる。 ・移住を考える際、仕事が占めるウェイトは大きい。テレワークであれば自由度高い(が、アドレスホッパーになる可能性もある。) ・移住と同時に家を購入するのは困難。移住者の住居としての賃貸物件が少ないと移住先として決定するのは難しい。空き家バンクの販売物件を一時お試し居住できるような仕組みづくりもできるといい。 | |
| 事務事業の見直し検討 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・移住ポータルサイトでの情報発信強化 ・空き家バンクの活用促進(令和2年度から空き家バンクの引き合い多い、物件登録増やすにはどうしたら良いか) ・ワーケーション・テレワーク体験としてのツアー企画。(年間200名の移住者を受け入れている長崎県五島市などを参考に)。 <p>地域課題について考えるツアーなどもあり、意識高い人との交流や移住者受入れとして有効ではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多数の自治体の中から選んでもらうのは難しい。Iターンより親や友人がいる地元へのUターン、生まれ故郷に近いJターンなどの方が選ばれる可能性高いのでは。一方、田舎ならではのしがらみが嫌で出ていく人もいれば、それを“つながり”と捉えて魅力を感じる都会の人もある。 ・30歳同窓会、1、5成人式などで地元の交流をよみがえらせる ・転出を減らす「定住」支援に力を入れてはどうか。→子育て支援、学生時代からの故郷を思う意識醸成 ・テレワーク施設の整備と移住者向け賃貸物件の整備(畑付きで田舎暮らしを体験できるような集合住宅、空き家リノベーションによる戸建て住宅) ・ホームステイ制度を構築し、移住希望者にとってはお試し居住をできると共に、受け入れ先にとっては例えば高齢者世帯の見守りや力仕事の手伝いもお願いできるようなwin-winの仕組みを考える。 ・車バンク・除雪機バンクなどを立ち上げ、移住者が安価にそれらを手入できる仕組みをつくる。また、除雪・雪囲いなど、雪国以外からの移住者にはなじみがないので講習会を開催する。 ・「新規農業・第3者経営継承を目指す人向けのツアーを組む」など、事前にターゲットを明確にした上で、そのツアーで紹介してほしい農地付き空き家などを募集する、 ・田植えなど、水稲を目指す人にとって体験したい時期の受け入れに協力していただくかたを探す。 | |



| 4.現状分析 | Check |
|--------|--|
| 自己分析 | <p>評価できる点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住体験ツアーは内容が充実したものであり、参加者から好評だった。実際にツアーをきっかけに移住に至った方もいる。 ・令和2年度までの「ふるさと定住いいですね条例」では、移住者に奨励内容が手厚い形であったものを、令和3年度からの「飯豊で幸せになる条例」では町に住み続ける方への奨励の底上げがされた。 ・移住ポータルサイトができた。 ・移住してきた方は2名かもしれないが、その後折りにふれ連絡をくれたりSNSでつながっている関係人口が生まれており、移住者数だけで測れない効果が出ている。 ・住宅取得奨励は、居住地決定を左右するほどの効果はないにしても、飯豊を好きになってもらうポイントにはなる。 ・ツアーや奨励金にかかわらず、役場から移住者への対応が手厚いと思う。 ・移住ツアーの費用が格安で女性限定にしたのはよかった。 |
| | <p>改善すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住体験ツアーは、より移住志向が強い人をターゲットにした企画にする必要がある。 ・新規就農・第三者経営継承を希望する方向けに、農地付き空き家物件の内覧や、第三者経営継承に関心がある町の農家と引き合わせが出来るような企画があると、移住志向が高かつ農家の担い手確保にもつながるのではないか。 ・移住者に住居として提案できる案件が少ない(アパート、空き家バンク・・・) ・空き家バンクに関しては、即入居可でなくても、低家賃、自由にリノベーション可の物件も情報提供すれば、DIYが好きな人が利用したがるのではないか。 ・紹介できる仕事の情報量が少ない ・移住ツアーが、観光ツアー色が強く、「暮らす場所」としての町の紹介が乏しい。 ・移住者に対して手厚くしすぎるのはよくない。 ・多数の自治体の中から選ばれるための取り組み必要。 ・テレワークを推進できる施設が必要 ・移住相談があっても住居として紹介できる物件が少ないため移住につながらない。 ・移住と住居はセット。他の事業と連携して住居の課題も考えないと計画倒れになりかねない。 ・「町を知ってもらう」という漠然としたツアーでなく、ターゲットを絞ったツアー ・田植えなど、農業を目指す人に取ってぜひ経験したいような時期は、農家の人も忙しくて研修の人に手をかける時間がない。大規模でなくても、研修に協力していただける方を募ることが必要。 |
| | <p>自己評価</p> <p>B / 効果はあった</p> |



総合戦略 主要プロジェクト 評価シート

| | | | | |
|------|-------|-----|----------|----------|
| 評価年度 | 令和3年度 | 所管課 | 地域整備課建設室 | 企画課総合政策室 |
|------|-------|-----|----------|----------|

| | | |
|-------------|-----|---------------------|
| No./プロジェクト名 | 10 | 確かで柔軟な住環境整備 |
| 関連総合計画 | 3-2 | 多様なライフスタイルの実現に向けた支援 |
| | 3-3 | 総合的な住宅対策の支援 |
| 関連総合戦略 | 9 | 移住・定住田園回帰の加速化 |
| | | |

| | |
|------------|--|
| 1.プロジェクト概要 | Plan |
| 現状・背景 | 町内企業へ町外から勤める人の増加が見込まれる中、年齢や家族構成などに関わらず入居できる住宅の整備が求められている。 また、住宅に対する町民ニーズが多様化しているため、ライフスタイルに応じ、すべての人が安全で安心して暮らせる環境整備の模索が必要である。 |
| 課題 | ・若者の転出抑制のため、若い単身者等が入居できる単身者用住宅への対応の整備に民間の活力とともに取り組む。 ・リフォームの支援による居住環境の整備・耐震化を進め、数世代にわたり使用できる住宅の普及を図る。 ・人口減少に伴い、今後ますます空き家が増加することが予想されているため、老朽化して倒壊の危険のある空き家の解体を促進するとともに、空き家を幅広い用途で利活用するなど、空き家の発生を抑制するための取組みを促進する。 |
| 解決策 | ・民間主体の空き家リノベーション（若者単身者のシェアハウス） ・ライフステージに応じた住み替えの推進 ・木造住宅耐震診断補助事業・住宅リフォーム総合支援事業の継続的実施 ・町営住宅については、飯豊町町営住宅長寿命化計画に基づき、改修を推進 ・高気密・高断熱・高耐久で数世代にわたり使用できる住宅の普及 ・既存住宅の耐震改修や減災対策の促進 ・老朽危険空き家の計画的な解体・撤去の推進 ・幅広い用途による空き家の利活用の促進 |

| | | | | | | |
|-------------|--|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 事業目標/将来ビジョン | 耐震やエネルギー利用に配慮した住宅の促進 住宅ニーズに応じた居住の供給 老朽危険空き家の除却支援や空き家の利活用 | | | | | |
| 数値目標 (KPI) | 数値 (成果目標) | 2021(R03) | 2022(R04) | 2023(R05) | 2024(R06) | 2025(R07) |
| | | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 累計目標値 |
| | 飯豊型エコハウス棟数 | 1棟 | | | | 20棟 |
| | 老朽危険空き家数 | △ 5棟 | | | | △50棟 |

| | |
|--------|--|
| 2.実行計画 | Do |
| 令和3年度 | |
| 事業内容 | ○木造住宅耐震診断補助事業・住宅リフォーム総合支援事業 15,800千円 ○住宅等小規模リフォーム支援事業 5,000千円 ○老朽危険空き家解体補助事業 5,000千円 |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |
| 令和4年度 | |
| 事業内容 | ○木造住宅耐震診断補助事業・住宅リフォーム総合支援事業 15,800千円 ○住宅等小規模リフォーム支援事業 5,000千円 ○老朽危険空き家解体補助事業 5,000千円 ○Iターン就労者に対する入居資格の緩和【入居資格20歳以上を18歳以上に】 ○ワーキンググループでの提案 ・近年の災害頻発を鑑み、ハザードマップに合わせて危険な状態となる恐れがある空き家の所有者へ強く働きかける |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |
| 令和5年度 | |
| 事業内容 | ○木造住宅耐震診断補助事業・住宅リフォーム総合支援事業 15,800千円 ○住宅等小規模リフォーム支援事業 5,000千円 ○老朽危険空き家解体補助事業 5,000千円 ○家財片付け等支援事業 400千円 ○ワーキンググループでの提案 (令和6年度) ・瑞穂寮解体事業 ・単身・子育て世代・高齢者等の各層のニーズを反映したいいでハイツ居住環境改善 |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |

| 5.プロジェクトの方向性の見直し | Action |
|---|--------|
| 方向性の検討 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・単身者やシェアハウスなどのライフスタイルに応じられるよう、いいでハイツの入居条件を見直す ・空き家の補助金増額を目指すだけでなく、所有者への啓発を実施する ・空き家解体を単体ではなくまとめて行うことで、事業費の縮小を図る ・「住生活基本計画」を策定し、町民の住生活の安定の確保及び向上の促進に関する目標や基本的な施策などを定める。また、目標を達成するために必要な措置を講ずる ・「住生活基本計画」に基づき、町管理住宅の住宅環境改善を講じる際には、単身者・子育て世帯及び各世代に向けた改修を実施 ・ニーズに応じた周囲の環境整備を他所管と連携して実施 ・用途に合わせた空き家の利活用 | |
| 事務事業の見直し検討 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・いいでハイツ入居に関し、単身者や同居親族縛りを除くための条例改正 ・専門職大学の開学とは切り離し、住民のニーズを拾い上げたいいでハイツの居住環境改善を行い、さらに単身者向けだけでなく、子育て世代や高齢者向けの居住環境改善を行い町全体の住宅施策とする ・同じ地区の空き家解体希望者を募り、数件になれば各世帯の負担額を決め、残りを町が負担する。廃棄物などをまとめて運搬処分することで費用を安くし解体の促進を図る。 ・「住生活基本計画」を策定する際に町民に向けたアンケートを実施し、ニーズを拾い上げた居住環境改善を行う。 ・庁内関連部署との連携を強化し、住宅施策にかかわる情報共有のための体制づくりを推進する。 ・空き家所有者に通知をする際、除却だけでなく利活用の事例などもお送りし、管理不全状態とならない方法を提案する | |

| 4.現状分析 | | Check |
|--------|--------|--|
| 自己分析 | 評価できる点 | ・リフォーム補助支援事業の利用者が多く、喜ばれている |
| | 改善すべき点 | <ul style="list-style-type: none"> ・空き家を売却・賃貸するためのリフォーム補助があればよいのではないか ・危険老朽空き家だけでなく、健全な住宅を解体する人のための補助があれば、なお解体は進むのではないか ・瑞穂寮を解体し、中津川の空き家や中津川診療所の2階の医師住宅を瑞穂寮に代わるものとして利用していけないか |
| | 自己評価 | A / 相当程度効果的だった |

総合戦略 主要プロジェクト 評価シート

| | | | | |
|------|-------|-----|------------|------------|
| 評価年度 | 令和3年度 | 所管課 | 商工観光課観光交流室 | 商工観光課産業連携室 |
|------|-------|-----|------------|------------|

| | | |
|-------------|-----|-------------------------------|
| No./プロジェクト名 | 11 | 新たなツーリズムの創造 |
| 関連総合計画 | 3-1 | 国内外からの観光・交流の促進 |
| | 4-2 | 輸送・交通手段の再構築 |
| 関連総合戦略 | 12 | 人をつなぐ、心をつなぐ交流と発信 |
| | 15 | 地域の拠点づくりと新たな地域支え合い活動の創造（移動支援） |
| | 17 | スマートカントリー構想の実現 |

| | |
|------------|---|
| 1.プロジェクト概要 | Plan |
| 現状・背景 | 観光は農林水産業など他産業との関連も深く、地域への経済波及効果の大きい産業である。旅行目的や形態は、その土地ならではの体験など「コト」消費への需要の高まりが見られる。そのため、誘客には多彩な地域資源を生かし、魅力ある観光地づくりを進める必要がある。観光客数を増やして観光消費額の拡大や地域経済の循環につなげていく。さらに、地域の特性や魅力を体験する多様な交流を通じて、関係人口・交流人口の創出を促進する。 |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> 観光の案内窓口間の情報共有 ニューツーリズムの創造と体制整備 二次交通整備 時代の流れや経済の状況などに大きく影響されること （例：国内旅行の傾向が団体旅行→個人旅行へ、海外インバウンド、新型コロナウイルスによる自粛、マイクロツーリズム…など） |
| 解決策 | <ul style="list-style-type: none"> 観光の案内窓口間の情報共有を強化する 通常、観光情報の発信源並びに観光客の情報入手源及び相談相手は、商工観光課と(一社)観光協会である。人事異動のある商工観光課と比べて観光協会は人事異動がなく、経験、知識及び人脈が蓄積されやすい。一方、商工観光課が詳しいことや情報入手が早い場合がある。観光客の利便性と誘客促進を考えると、商工観光課と観光協会が連絡を密にし、同一情報を観光客に提供できるように努める必要がある。 顔を合わせた情報交換のほかに電話やメールなどによって、文字のほかに画像や動画など多様な種類による情報交換を進め、その情報をHPやSNSなどで情報発信する。 ニューツーリズムの創造と体制整備を図る 二次交通の基盤を整備する ※「ニューツーリズム」とは、従来型の観光旅行ではなく、テーマ性の強い体験型・交流型の新しいタイプの旅行とその旅行システム全般を指す。テーマとしては、産業観光、エコツーリズム、グリーンツーリズム、ヘルスツーリズム、ロングステイ、着地型商品など。その他、メディカルツーリズム、サステイナブルツーリズムなど、時代の流れとともにさまざまなツーリズムが存在する。 |

| | | | | | | |
|-------------|--|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 事業目標/将来ビジョン | 新たなツーリズムの創造と二次交通整備を図り、観光客の受入れ基盤を整備することで、関係人口・交流人口の創出を促進する。 | | | | | |
| 数値目標 (KPI) | 数値 (成果目標) | 2021(R03) | 2022(R04) | 2023(R05) | 2024(R06) | 2025(R07) |
| | | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 累計目標値 |
| | ニューツーリズム総合窓口創設 | 0 | | | | 1件 |
| | ニューツーリズム関係組織構築数 | 0 | | | | 5組織 |
| | 二次交通基盤整備利用者数 | 0 | | | | 20人 |

| | |
|--------|--|
| 2.実行計画 | Do |
| 令和3年度 | |
| 事業内容 | 【観光の案内窓口間の情報共有を強化する】 ① (一社)観光協会と情報共有し同一情報を提供できるように努めた 白川湖の水没林の注目度の高まりによって、令和3年に県道8号と公園内に渋滞が発生した。観光協会と町のほかに、公社といいでカヌークラブによる次年度の対策会議を複数回開催し、次年度に向けて対策内容を協議した。また、観光業者への売り込み時の留意点について協議し、観光協会で内容をまとめたHPを作った。 ② アウトドアアクティビティの流行を捉えるべく、梅峰と天狗山に関する山岳情報を町HP内に新たに設けて公開した。その情報を観光協会と共有した。 ③ 観光協会と協力してウォーキングイベントを2回実施した。 【ニューツーリズムの創造と体制整備】 ① 地域おこし協力隊受入れ事業 (予算/4,541千円) ② 地域連携DMO組織やまがたアルカディア観光局との連携事業 (予算/7,973,000円) ③ 都市農村交流事業 (予算/農山漁村振興交付金) 創造した旅行商品と協力団体 ・ バイオガス発電と昼食を組み合わせた日帰り旅行 (東北おひさま発電) ・ 中津川地内でのスノーモービル体験と昼食を組み合わせた日帰り旅行と白川荘宿泊旅行 (いいでスノーモービルクラブ) ・ スノーシューハイク半日コースの旅行 (いいでカヌークラブ) |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |
| 令和4年度 | |
| 事業内容 | 【ニューツーリズムの創造と体制整備】 ① 地域おこし協力隊受入れ事業 ② やまがたアルカディア観光局との連携事業 ③ 都市農村交流事業 (予算/農山漁村振興交付金) ○ワーキンググループでの提案 【ニューツーリズム】 ・観光基本計画の策定 ・サステイナブルツーリズムの実証実験 (SDGsミッションの地域おこし協力隊との連携を検討する) 【二次交通基盤整備】 飯豊町デマンド交通システム「ほほえみカー」の利用者拡大検討 |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |
| 令和5年度 | |
| 事業内容 | ○ワーキンググループでの提案 【ニューツーリズム】 ・観光基本計画に基づくニューツーリズムの推進 【二次交通基盤整備】 飯豊町デマンド交通システム「ほほえみカー」の利用者拡大 |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |

| 5.プロジェクトの方向性の見直し | Action |
|---|--------|
| 方向性の検討 | |
| | |
| 事務事業の見直し検討 | |
| <p>【ニューツーリズム】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光協会の業務については、効果検証を行ったほうが良い。 「観光基本計画」またはそれに準ずるものを整備し、観光関係者（町観光協会、地域連携DMO組織やまがたアルカディア観光局、第三セクター、民間・県営施設など）が一体となって、戦略的なツーリズムの推進をしていく必要がある。 コロナ禍の状況がしばらく続くことを鑑みて、県民をターゲットにしたマイクロツーリズムを推進してはどうか。 サステナブルツーリズム（SDGs体験プログラム）の推進 自己啓発型企業研修などの受入れ促進 <p>【二次交通基盤整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> タクシー会社など既存の二次交通を活かす。 ナビや交通案内の整備に力を入れてはどうか。 電池バレー構想（専門職大学）と連携し、大学生の力を借りてはどうか。システム開発やボランティア送迎など。 観光スポットと二次交通の予約が一括してできると良い。 観光分野に限らず、町全体の課題として検討が必要では。すでにある「車」と「人」をいかした二次交通整備を行ってはどうか。 <ul style="list-style-type: none"> ライドシェア（京都府京丹後市「ささえ合い交通」） カーシェアリング スクールバスや「ほほえみカー」を観光客も使えるようにする 公用車を使用しない日はレンタカーとして貸し出す | |



| 4.現状分析 | Check |
|--------|---|
| 自己分析 | <p>評価できる点</p> <p>【観光の案内窓口間の情報共有を強化する】 観光情報の発信源であり観光客の情報入手源として商工観光課と(一社)観光協会と情報共有し同一情報を提供できるように努めた</p> <p>【ニューツーリズム】</p> <ul style="list-style-type: none"> やまがたアルカディア観光局との連携により、観光振興の基盤ができている。 地域おこし協力隊の活動により、アウトドアアクティビティの振興が図れている。 特定分野に精通した町内団体から協力得て体制整備をした。 ニューツーリズムの旅行商品を1つ、町内団体の協力で複数商品を完成させた。 |
| | <p>改善すべき点</p> <p>【ニューツーリズム】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数値目標に掲げている「ニューツーリズム総合窓口」の具体的なビジョンが商工観光課でできておらず、まずは具体的な計画が必要である。 観光案内の総合窓口がわからない。 |
| 自己評価 | B / 効果はあった |



総合戦略 主要プロジェクト 評価シート

| | | | | |
|------|-------|-----|------------|------------|
| 評価年度 | 令和3年度 | 所管課 | 商工観光課観光交流室 | 企画課総合政策室 |
| | | | | 商工観光課産業連携室 |

| | | |
|-------------|-----|---------------------|
| No./プロジェクト名 | 12 | 人をつなぐ、心をつなぐ交流と発信 |
| 関連総合計画 | 3-1 | 国内外からの観光・交流の促進 |
| | 3-2 | 多様なライフスタイルの実現に向けた支援 |
| 関連総合戦略 | 9 | 移住・定住・田園回帰の加速化 |
| | 11 | 新たなツーリズムの創造 |

| | |
|------------|---|
| 1.プロジェクト概要 | Plan |
| 現状・背景 | 人口減少に伴って域内消費額はますます減少していくことが見込まれ、地域コミュニティや伝統文化の維持のためにも、関係人口・交流人口の創出は欠かすことができないものとなっています。飯豊町には雄大な自然や豊かな食、伝統文化など訪れた人々の心を揺さぶる多様な魅力が存在します。なかでも人の心をより大きく揺さぶるのが「人との関わり」と「人をもてなす温かな心」です。今後もこの美点をいかし、町外在住者が本町との関わりを持つ多様な機会（ふるさと納税や都会の子供の農山漁村体験、大学の合宿、農業体験や除雪ボランティアの受入れなど）を創出するとともに、積極的に情報発信をする機会や基盤を創出していきます。また、SNSなどのデジタルメディア等も積極的に活用し、関係人口・交流人口を創出しながら、地域課題の解決や地域活性化につながる取り組みを推進しています。 |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> 交流事業や情報発信事業の効果が不明瞭である アンテナショップで積極的な情報発信や交流事業が実施できていない |
| 解決策 | <ul style="list-style-type: none"> 効果的な交流と情報発信に関するモニタリングの実施 アンテナショップでの情報発信強化 アンテナショップでの交流イベントの実施 SNSによる情報発信強化 |

| | | | | | | |
|-------------|---|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 事業目標/将来ビジョン | <ul style="list-style-type: none"> 事業の効果検証を行い、より効果的な交流事業と情報発信を行う 町のアンテナショップやふるさと納税（クラウドファンディング）などを活用し、関係人口・交流人口の創出を促進する | | | | | |
| 数値目標（KPI） | 数値（成果目標） | 2021(R03) | 2022(R04) | 2023(R05) | 2024(R06) | 2025(R07) |
| | | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 累計目標値 |
| | モニター事業数 | 0 | | | | 15事業 |
| | クラウドファンディング事業数 | 0 | | | | 5事業 |
| | アンテナショップでのイベント参加者数 | 53 | | | | 2,300人 |

| | |
|--------|--|
| 2.実行計画 | Do |
| 令和3年度 | |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> 【交流事業】 ・オンラインキッチン開催 ・農都交流事業として杉並区純情商店街で飯豊町トークイベントと高円寺学園プールでカヌー体験実施 ・東京外国語大学スタディーツアーをオンライン開催 ・「いいで Fun Club」新規会員への観光パンフレット送付 ・SNS（facebookとYouTube）による情報発信 【アンテナショップ】 ・アンテナショップ事業（予算/600千円）※産業連携室予算 ・都市農村交流事業（予算/農山漁村振興交付金）※観光交流室予算 |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |
| 令和4年度 | |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> 【交流事業】 ・「いいで Fun Club」の交流会実施 ・農都交流事業実施 ・東京外国語大学スタディーツアー実施 ・町公式SNS（フェイスブック）による情報発信 〇ワーキンググループでの提案 【モニター事業】（商工観光課観光交流室） ・めざみの里観光物産館を拠点としたモニター調査 ・SNS情報発信の効果検証 【クラウドファンディング事業】（企画課総合政策室） ・ふるさと納税型クラウドファンディング 【アンテナショップ】（商工観光課産業連携室） ・ショップの効果検証 |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |
| 令和5年度 | |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> 【モニター事業】 ・プロジェクトNo.11「新たなツーリズムの創造」と連動して実施 【クラウドファンディング事業】（企画課総合政策室） ・ふるさと納税型クラウドファンディング 【アンテナショップ】（商工観光課産業連携室） ・イベント開催 予算：600,000円 |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |

| 5.プロジェクトの方向性の見直し | Action |
|--|--------|
| 方向性の検討 | |
| <p>【モニター事業】 プロジェクトNo.11「新たなツーリズムの創造」と連動したモニタリングを行っていきたい。</p> <p>【アンテナショップ】 イベント参加者数の数値に誤りがあり、目標値の変更が必要。</p> | |
| 事務事業の見直し検討 | |
| <p>【モニター事業】 事業ごとに効果検証を行う。</p> <p>【クラウドファンディング事業】 「ふるさと納税制度」を活用して行う「クラウドファンディング型ふるさと納税」を実施してはどうか。町内での体験交流に繋がるリターンをつくってほしい。</p> <p>【アンテナショップ】 交流イベントの内容やショップの機能、目的について再度検討をしていただき、飯豊町ならではのショップにしていただきたい。また、町のことを紹介できる店員を育成してほしい。地域おこし協力隊などの人材を派遣するという方法もあると考えられる。また、移住、交流促進、情報発信の場となってほしい。</p> | |



| 4.現状分析 | | Check |
|--------|------------|--|
| 自己分析 | 評価 できる点 | <p>【交流事業】 ・コロナ禍でも、オンラインキッチンや、杉並区でのトークイベント、カヌー体験、東京外国語大学スタディーツアーなどを、現地やオンラインで実施した。</p> <p>【アンテナショップ】 町アンテナショップと連携した交流事業が継続して行われている。</p> |
| | 改善 すべき点 | <p>【アンテナショップ】 ・町アンテナショップの更なる活用が必要である。</p> <p>・アンテナショップがおにぎり屋になっているのはもったいない。</p> <p>・コロナ禍だからこそ、飯豊町を感じることができるような場所になると良い。</p> <p>・体験型のワークショップを行ったり、獅子舞を披露したりできないか。</p> <p>・飯豊町のモノが買えることが望ましい。</p> <p>・移住の窓口となってほしい。</p> <p>・チャレンジ販売ができることについて、知られていないのでは。</p> <p>・観光スポットの紹介の場として活用してほしい。</p> |
| 自己評価 | | B / 効果はあった |



総合戦略 主要プロジェクト 評価シート

| | | | | |
|------|-------|-----|------------|------------|
| 評価年度 | 令和3年度 | 所管課 | 農林振興課農業振興室 | 農林振興課農林整備室 |
| | | | | 農林振興課農地管理室 |

| | | |
|-------------|-----|--------------------|
| No./プロジェクト名 | 13 | 魅力的で活力ある、力強い農林業の振興 |
| 関連総合計画 | 重7 | 農の未来事業の推進 |
| | 5-1 | 大地と自然を生かす農林業の強化 |
| 関連総合戦略 | 14 | 域内循環社会の構築 |
| | 18 | デジタルを活用した強固な基盤の確立 |

| | |
|------------|--|
| 1.プロジェクト概要 | Plan |
| 現状・背景 | <p>近年における農業情勢は、基幹的農業者の高齢化や担い手不足が深刻化し、活力ある農業活動が衰える可能性があります。また、新型コロナウイルス感染症による農畜産物の価格下落や、有害鳥獣による被害など課題は多く、「魅力的」であるとは言い難い状況です。</p> <p>しかし、農業は生きることの根幹である「食」を生み出すだけでなく、農村の原風景を守るなど多面的な機能を担っており、後世に引き継いでいく必要があります。</p> <p>これまで本町では「飯豊・農の未来事業」として、「米」にかわる新たな土地利用作物の栽培実証や、6次産業化の推進に取り組んできました。</p> |
| 課題 | <p>①農業従事者の高齢化・担い手不足 農業従事者が減ることで、耕作放棄地の増加→獣害の増加→農業者の生産意欲減退と悪循環が生まれており、早期に解決する必要があります。</p> <p>②「液肥」の有効利用 昨年町内に完成した「ながめやまバイオガス発電所」からは、毎年定量の液肥が生成されるため、有効に利用していく方法を検討していく必要があります。</p> |
| 解決策 | <p>①農業従事者の高齢化・担い手不足の課題解決のため、省力的作物である子実用トウモロコシの栽培を普及を目指します。また、ICT等を活用したスマート農業の導入や、定年を迎えた町民、行政職員、土木会社職員の農繁期の人員派遣など、他業種と連携した農業生産活動を模索します。</p> <p>②「液肥」の有効利用については、子実用トウモロコシに散布することで、他にはない飯豊型の循環型農業を確立します。また、より詳細な液肥の分析を行うとともに、観光施設（ゆり園等）の花きへの散布など、多種多様な活用方法を検討していきます。</p> |

| | | | | | |
|-------------|--|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 事業目標/将来ビジョン | 省力的作物の導入、ICTの活用、他業種との連携により、労働力不足を解決し、液肥を有効に活用することで、飯豊型の循環型農業を確立する。 | | | | |
| 数値（成果目標） | 2021(R03) | 2022(R04) | 2023(R05) | 2024(R06) | 2025(R07) |
| | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 累計目標値 |

| | |
|--------|--|
| 2.実行計画 | Do |
| 令和3年度 | |
| 事業内容 | <p>飯豊・農の未来塾補助金 いいで黒べこ「冬の陣」負担金 6次産業化推進支援事業 畜産生産力・生産体制強化対策事業（子実用とうもろこし刈取り機械の導入） ミルクブランド推進協議会補助金</p> <p>・子実用とうもろこしについては、「液肥」を10aあたり10 t 散布を行い栽培しましたが、播種の遅れと除草剤散布ができなかったことにより、収量が減少した。現在、県関係機関と町とで「タスクチーム」を結成し、今後面積や収量の拡大を図る。</p> <p>「液肥」は成分分析を行い、里芋・野菜・主食用水稻・飼料用米・WCS等に散布し、実証を行った。特に置賜農業高校や山形県農業技術普及課の協力のもと生育状況を比較検証した。</p> |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |
| 令和4年度 | |
| 事業内容 | <p>飯豊・農の未来塾補助金 いいで黒べこ「冬の陣」負担金 6次産業化推進支援事業 ミルクブランド推進協議会補助金</p> <p>〇ワーキンググループでの提案</p> <p>①液肥活用における課題の聞取り ※予算措置なし</p> <p>②他業種連携、スマート農業を知る 視察研修旅費 10,900円×6人 = 65,400 スマート農業実証謝礼 50,000円×1件 = 50,000</p> |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |
| 令和5年度 | |
| 事業内容 | <p>飯豊・農の未来塾補助金 いいで黒べこ「冬の陣」負担金、6次産業化推進支援事業 ミルクブランド推進協議会補助金</p> <p>〇ワーキンググループでの提案</p> <p>①液肥活用における課題解決に向けた取組 ※予算措置 未定</p> <p>②スマート農業の実証 スマート農業実証謝礼50,000円×1件 = 50,000円</p> <p>③スマート農業普及事業 500,000円×1/2×5件 = 1,250,000円</p> |

| | | | | | | |
|------------|-------------------|---|--|--|--|----|
| 数値目標 (KPI) | 農の未来事業の実証済事業の現場導入 | 0 | | | | 2戸 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

| | | | |
|----|--|---------------|--|
| 予算 | | 内、WG提案事業に係る予算 | |
|----|--|---------------|--|

| | |
|--|--------|
| 5.プロジェクトの方向性の見直し | Action |
| 方向性の検討 | |
| 既存事業の継続 飯豊・農の未来事業実証済事業の普及・拡大 ・子実用とうもろこしの普及拡大のため、コントラクター（請負）組織の育成が不可欠。 | |
| 事務事業の見直し検討 | |
| 6次産業化推進支援事業の活用促進 省力作物の魅力発信、機械等の補助検討 ・子実用とうもろこしの需要先の確保のため、ただ収穫するだけでなく配合飼料との兼ね合いも検証していく必要がある（単体では需要先が無い恐れがある）。 | |

| | | |
|--------|------------|--|
| 4.現状分析 | | Check |
| 自己分析 | 評価 できる点 | 6次産業化推進支援事業において、農業者が自ら考え、自発的に商品開発に取り組んでいること。 新たな作物の導入などに積極的に取り組んでいること。 ・子実用とうもろこしを今後、基盤整備圃場の生産調整面積分に活用する目途がたてられたことにより、面積拡大及び収量確保が見込まれた。 |
| | 改善 すべき点 | 新たな作物導入後のアフターフォローがないこと ・子実用とうもろこしについて、自前の収穫機械が導入できなかったため、今後の面積拡大や需要者の確保を図るためにも、ぜひとも導入が必要。 ・液肥については慣行肥料に比べ、かなり効果があるというのではなく、あくまでも慣行肥料と遜色ないという実証になるため、その他の面での効果の周知が必要。 |
| 自己評価 | | B / 効果はあった |



総合戦略 主要プロジェクト 評価シート

| | | | | |
|------|-------|-----|----------|---------------------|
| 評価年度 | 令和3年度 | 所管課 | 住民課生活環境室 | 企画課、総務課、商工観光課、地域整備課 |
|------|-------|-----|----------|---------------------|

| | | |
|-------------|-----|----------------|
| No./プロジェクト名 | 14 | 域内循環社会の実現 |
| 関連総合計画 | 重6 | 多極分散・循環型社会の実現 |
| | 4-4 | 環境に優しいまちづくりの推進 |
| 関連総合戦略 | 17 | スマートカントリー構想の実現 |
| | 20 | バイオマス産業都市構想の推進 |

| | |
|------------|--|
| 1.プロジェクト概要 | Plan |
| 現状・背景 | 近年、地球温暖化が原因とみられる気候危機、自然災害が世界中で頻発している状況であり、本町でも河川洪水等の心配が大きくなっています。これらの地球環境問題と町の自然災害との関係性を住民一人ひとりが考えると同時に、想定される変化や災害に備える必要があります。また、地球温暖化の原因である二酸化炭素等の温室効果ガスの排出を抑える省エネ型の暮らしや脱炭素型のエネルギー転換について考え、行動する必要があります。 |
| 課題 | 本町はSDGs 未来市計画、気候非常事態宣言及びゼロカーボンシティ宣言に代表される気候変動に対応した持続可能なまちづくりを推進しています。それぞれの構想、計画、宣言を具体的に取り組んでいく必要があります。 |
| 解決策 | ① 4R運動の推進やエシカル消費など、環境に配慮した取り組みの推進 ② バイオマス資源など、本町の特徴的な資源を活用したエネルギー利用の促進 ③ 域内循環、環境負荷に配慮した公共施設整備、公共調達のガイドラインの策定 |

| | |
|-------------|--|
| 事業目標/将来ビジョン | 「エネルギー」や「食」、「住」の地産地消を進め、圏外への依存度を減らし、圏域内の地域資源を活用して、その消費が確実に域内に投下・循環することで、地域経済を好転・持続させる地域循環型社会の構築を推進します。 また、本町のバイオマス産業都市構想、SDGs 未来都市計画、気候非常事態宣言及びゼロカーボンシティ宣言に代表される、気候変動に対応した持続可能なまちづくりを推進します。町内木材の利用やグリーン購入、再生可能エネルギーの導入を積極的に支援するとともに、域内循環や環境負荷に配慮した公共施設整備、公共調達に努めます。 |
|-------------|--|

| | | | | | | |
|------------|--------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 数値目標 (KPI) | 数値 (成果目標) | 2021(R03) | 2022(R04) | 2023(R05) | 2024(R06) | 2025(R07) |
| | | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 累計目標値 |
| | 持続可能なまちづくりフォーラムの開催 | 0 | | | | 5回 |
| | 循環型社会推進ワークショップの開催 | 1 | | | | 5回 |

| | |
|--------|--|
| 2.実行計画 | Do |
| 令和3年度 | |
| 事業内容 | ・地球温暖化防止対策事業 = 住宅用太陽光発電システム補助 (1件) ・令和3年10月30日(土)、町民総合センター「あ〜す」の「いいでみらいマルシェ〜ちっちゃいめざみの里まつり〜」で特設ブースを設置し、令和3年度置賜地域地球温暖化対策協議会普及啓発活動を行った。エネルギー消費が増大する冬季において、暖房等の使用で特に電力需要が高まる時期に、まつりへの来場者に、地球温暖化やカーボンニュートラル、省エネ・節電の普及啓発を行った。 |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |
| 令和4年度 | |
| 事業内容 | ○再生可能エネルギー等設備導入事業費補助金 ・住宅用太陽光発電システム ・蓄電池設備 ○廃棄物処理事業 ・ごみカレンダーを作成し、ごみの出し方、分け方、4Rを周知。 ・アップサイクル研修 ・ごみ減量化器具等購入費補助事業 ・電動生ごみ処理機購入補助金 ○ワーキンググループでの提案 ・フォーラム、ワークショップ ・職員を対象とした勉強会 (バイオガス施設等の見学、電池バレー構想) |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |
| 令和5年度 | |
| 事業内容 | ○廃棄物処理事業 ・令和4年度と同様 ○ワーキンググループでの提案 ・地域協力隊人件費等 3,000千円、活動費1,000千円 ・フォーラム、ワークショップ 1,620千円 ・公共施設整備、公共調達のガイドラインの策定 ・ゼロ・エネルギー・ビルの導入の検討 ・電気自動車の導入 リース料 50千円×12か月 ・電気自動車の充電スタンド導入 6,200千円 ・庁舎の太陽光パネル・蓄電池、電気自動車関連の検討 |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |

| 5.プロジェクトの方向性の見直し | Action |
|---|--------|
| 方向性の検討 太陽光パネルのみではなく、蓄電池設備にも補助金を交付すべき。➤町独自の新たな補助制度を検討 飯豊町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の策定に際し、町民や町内企業へ、アンケートを実施して、地球温暖化対策への理解や、ワークショップの開催や協議会を組織して、温暖化対策への理解・合意形成を図ります。 | |
| 事務事業の見直し検討 蓄電池設備に補助金を交付する。➤R4より、太陽熱、蓄電池、地中熱融雪など対象を広げた再生可能エネルギー設備導入事業補助金交付要綱を定め交付予定。 域内循環社会に係る地域協力隊の募集➤下記、区域施策編の策定に関わり人員不足となった場合、検討する。 飯豊町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の策定に際し、将来の二酸化炭素の排出量の推計や新たな再生可能エネルギー設備の具体的な導入など、専門的な知見がないと対応に苦慮する場面があります。 | |



| 4.現状分析 | Check |
|--------|--|
| 自己分析 | 評価できる点 太陽光パネルの補助金の継続。➤今年度は、1件の申請であった。補助対象をパネルのみではなく、新たな設備を検討する必要がある。 テレビや新聞で、毎日のように、SDGsや二酸化炭素の削減（カーボンニュートラル）のニュースが取り上げられ、大人も子供も、より身近に感じられるようになってきているように感じられます。10月23日（土）山形ビッグウイングで開催された「エコカップ やまがた2021」〜カーボンニュートルやまがたを目指して〜に、事例発表で、「環境にやさしいまちづくりの推進－再生可能エネルギーによる域内循環社会の構築」と題して飯豊町の活動を発表し、また、東北おひさま発電株式会社の「バイオガス発電施設を中心としたリサイクルシステムの確立に向けた取り組み」と題して後藤博信社長の発表もあり、飯豊町の取組を大いにPRしてきたところです。 |
| | 改善すべき点 ・コンポスターだけでなく、畑がない家庭にも補助すべき（電動生ゴミ処理機など） ➤次年度以降検討。 ・蓄電池設備などに手厚く補助したほうがよい。➤新制度を策定中。 ・電池バレー構想との連携。➤商工観光課と検討。 ・太陽光パネル、ペレットボイラーにより発電し、庁舎内の電気を賄うまたは蓄電池に蓄える。➤総務課と検討。 ・公共施設のドアや窓を断熱性の高いものに切り替える。➤総務課と検討。 ・CO2を出さない自動車の購入、リース。➤総務課と検討。 |
| 自己評価 | A / 相当程度効果的だった |



総合戦略 主要プロジェクト 評価シート

| | | | |
|------|-------|-----|----------|
| 評価年度 | 令和3年度 | 所管課 | 健康福祉課福祉室 |
|------|-------|-----|----------|

| | | |
|-------------|-----|-------------------------|
| No./プロジェクト名 | 15 | 地域の拠点づくりと新たな地域支え合い活動の創造 |
| 関連総合計画 | 2-2 | 誰もが安心して暮らし活躍するための支援 |
| 関連総合戦略 | | |

| | |
|------------|---|
| 1.プロジェクト概要 | Plan |
| 現状・背景 | <p>住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるようには、個人に対する支援だけでなく、地域内での支え合いや、課題を解決できるような体制を構築し、地域でいきいきと生活できる環境づくりが必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いきいき100歳体操実施団体…22団体 ・地域の居場所開設数…2カ所 ・地域支え合いの取り組み団体数…2団体 |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防活動のみならず、除雪や買い物支援の充実が必要。 ・ボランティアではなくビジネス化での高齢者支援の検討。 ・除雪や移動支援などについて、今後についての不安や必要性を感じている方が多いものの、地域で課題を解決する動きについては、それぞれの地域での温度差は感じられる。 |
| 解決策 | <ul style="list-style-type: none"> ・除雪、買い物、移動の支援について、実現可能性の高い支援方法の検討 ・ボランティアとビジネスのすみわけ ・地域の既存の団体との兼ね合い |

| | | | | | | |
|-------------|---|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 事業目標/将来ビジョン | ①住民主体の地域の居場所づくりの設立、サロン活動の推進 ②地域の支え合いによる生活支援体制の仕組みづくり ③移動支援、買い物支援、配食支援、除雪支援など生活支援事業の推進 | | | | | |
| 数値目標 (KPI) | 数値 (成果目標) | 2021(R03) | 2022(R04) | 2023(R05) | 2024(R06) | 2025(R07) |
| | | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 累計目標値 |
| | いきいき100歳体操実施団体数 | 22団体 | | | | 30団体 |
| | 地域の居場所開設数 | 2カ所 | | | | 5カ所 |
| | 地域支え合いの取り組み団体数 | 2団体 | | | | 5団体 |

| | |
|--------|---|
| 2.実行計画 | Do |
| 令和3年度 | |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・いきいき100歳体操…22団体 ・地域の居場所開設数…2カ所 → 継続 ・地域支え合いの団体数…2団体 <p>集いの場を通してお互いの安否確認や支え合い活動を行うなど、住民が主体的に取り組む活動が増えてきている。</p> |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |
| 令和4年度 | |
| 事業内容 | <p>集いの場から地域支え合いの仕組みづくりを考えるきっかけとして、高齢者だけではなく他の年齢層や誰でも参加できるような活動の場を検討する（見守りや支援が必要な住民についての情報交換、情報の集約方法・手段についての多方面から検討するために、関連する他課の参加によるWGを検討）</p> |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |
| 令和5年度 | |
| 事業内容 | |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |

| 5.プロジェクトの方向性の見直し | Action |
|---|--------|
| 方向性の検討 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 既存の地域の拠点（集いの場）は継続していく 何のための場所、集まりなのか情報発信し、地域に存在していく必要性を伝える—集まることが目的ではなく、集まった後の具体的発展に向けての活動の検討 地域支えあいの仕組みづくりを担っていける人を集めるための手段の検討。年代、時間を変えた集いの場を開催することで、場所や団体を知ってもらうきっかけをつくる。（休日の夜に40～60代の働く世代の方が集まり、交流を深める機会の確保。仕事帰りの若い世代の方たちが、手作りお惣菜や地場産の新鮮なものを見て買い物でたら場所や団体を知る顔つなぎの場にする→収益は集いの場の運営資金にまわす）—活動があるような団体以外にも既存の団体はたくさんあるため、そこから広げる手段も 公民館を活用すれば、新規に設置するほどの予算は必要なく、来る人も知らないところよりは比較的来やすい コミュニティへの参加に消極的・苦手な方の安否確認や関り方（町内事例：冬場は玄関先にスコップを立てて置くことで対面せずとも「今日は出てきて除雪をした」ことが確認できる） 地域支え合い除雪の有償ボランティア化（なり手不足対策） | |
| 事務事業の見直し検討 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 課題、成功点、改善点についてのデータが不足しているため、実際に活動している団体の声が必要 町内全域に設置を目指すのではなく、まずは1カ所「誰かと会えて、支援を受けて、勉強できて、居場所になれる」という場所をつくる。 いろいろな団体が各々で動くのではなく、関係者が集まって複合的な役割をもつ場所としてつくりあげていく。 多様な人、多様な場面で活動していける場所が望ましいが、昼と夜の活用で場所や人が変わってもいい。 核家族が増えて高齢者との関りを持つ機会がなく、関わり方がわからない子供や若い世代がいると思われるので、集いの場でイベント等を通じて地域の人に情報発信したり、集いの場参加者が講師になって子供～若い世代を対象に「教室」を開いて関りをもっていく。 学童ではなく居場所で親の帰宅を待つ場としての役割も持てるといい。 | |



| 4.現状分析 | Check |
|--------|--------|
| 自己分析 | 評価できる点 |
| | 改善すべき点 |
| 自己評価 | |

・住民主体での集いの場が立ち上がっている

・本当に来てほしい人がつながっていない（近所の関わりが少ない、気軽に行ける）ため、来てもらうために何が必要なのか

・既存サロン等とのすみわけ（設置の目的）

・地域格差がある（集いの場がすでにある場所とない場所での選択肢の違い）

・住民主体でやっていくことの限界が現時点の取り組みなのではないか

B / 効果はあった



総合戦略 主要プロジェクト 評価シート

| | | | | |
|------|-------|-----|----------|---------------|
| 評価年度 | 令和3年度 | 所管課 | 企画課総合政策室 | 町民総合センター生涯学習室 |
|------|-------|-----|----------|---------------|

| | | |
|-------------|-----|-------------------|
| No./プロジェクト名 | 16 | 「日本で最も美しい村」づくり |
| 関連総合計画 | 重5 | 美しい田園景観を未来に残そう |
| | 1-5 | 地域資源を活用した芸術・文化の創出 |
| | 3-5 | 「日本で最も美しい村」づくりの推進 |
| 関連総合戦略 | 4 | いいで田園ルネサンス |
| | | |

| | |
|------------|--|
| 1.プロジェクト概要 | Plan |
| 現状・背景 | <p>雄大な飯豊連峰や清流白川、本町面積の8割を超える山林、田園散居集落に代表される美しい田畑と屋敷林、町内各地に点在する飯豊遺産や伝統文化は、先人から受け継いできた本町の貴重な財産です。</p> <p>貴重な財産を後世に残していくためには、私たち一人ひとりが景観や文化、伝統を意識した暮らしをしていく必要があります。</p> |
| 課題 | <p>しかしながら、人口減少や少子高齢化により地域が衰退し、景観の維持や伝統文化の継承に支障をきたしています。</p> <p>また、景観条例や景観計画も策定していないこともあり、住民に対して、行政からのアクションが難しい状況であり、住民の自主性に委ねているのが現状です。</p> |
| 解決策 | <p>そのため、景観条例及び景観計画の策定を検討し、自然環境や美しい景観、飯豊遺産や伝統文化を将来世代へ引き継いでいくため、住民と行政が連携した保全の取り組みを推進していく必要があります。</p> <p>条例や計画で指針を示すだけでなく、ワークショップの開催や文化財のアーカイブ等、景観や伝統文化への意識向上を図り、地域の活性化や郷土愛の醸成に努める必要があります。</p> <p>さらに景観を意識した取り組みに対して助成を行うなど、公民が一体となった「最も美しい町」づくりを検討する必要があります。</p> |

| | | | | | | |
|-------------|---|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 事業目標/将来ビジョン | <p>○先人から受け継いできた景観や文化、伝統を後世に残していく。</p> <p>○「最も」美しい村であり続ける。</p> | | | | | |
| 数値目標 (KPI) | 数値 (成果目標) | 2021(R03) | 2022(R04) | 2023(R05) | 2024(R06) | 2025(R07) |
| | | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 累計目標値 |
| | 文化・伝統ワークショップの開催 | 1 | | | | 10回 |
| | 景観形成モデル事業取り組み団体 | 7 | | | | 20団体 |
| | 歴史資料のアーカイブ化達成率 | 0 | | | | 50% |

| | |
|--------|--|
| 2.実行計画 | Do |
| 令和3年度 | |
| 事業内容 | <p>地域での植栽活動や屋敷林の保全、景観を意識した取り組みに関して、助成を行う。</p> <p>地域での植栽については6団体からの申請あり（交付決定額 265千円） 屋敷林の保全については1名から申請あり（交付決定額100千円） 3月14日に屋敷林関わっていた学生の修士論文発表会を開催予定。次年度の景観形成ワークショップに繋げていきたい。</p> |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |
| 令和4年度 | |
| 事業内容 | <p>基本的枠組みは維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植栽活動の補助について、インセンティブ要素を盛り込む。 ・植栽の地区での取り組みの盛り上がりを促すため、子ども参加について上乘せ補助を行う。 <p>○ワーキンググループでの提案</p> <p>田園散居を織りなす屋敷林について、勉強できるフィールドワークを実施する。 令和4年度のターゲットは子どもたち。幼少期からの飯豊町の景観について関わりをもってもらうことで郷土愛の醸成と屋敷林についての理解と魅力を深めてもらう。 田園散居集落のビュースポットに親子で遠足気分に登ってもらう企画も同時に行う。 できれば他の取り組みと連動して相乗効果を図りたい。 筑波大学、山形大学、名城大学の研究のフィールドワークと連動した展開を図る。 景観ガイドラインについて、基準やモデル地区等を検討し、景観条例（最も美しい村づくり条例）制定に向けた検討会を実施する。</p> |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |
| 令和5年度 | |
| 事業内容 | <p>景観条例制定を目指す。飯豊町の織りなす景観・歴史的文化を広く周知し、先人から受け継いできたものの価値を再確認。</p> <p>○ワーキンググループでの提案</p> <p>町内ビューポイントの整備。憩いの場として活用し、景観に対する価値観の向上を図る。</p> |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |

| 5.プロジェクトの方向性の見直し | Action |
|--|--------|
| 方向性の検討 | |
| <p>方向性については基本的には継続。ただし、事業に関わる人数を増やすための仕組みづくりを再考する必要がある。先進事例の視察研修も検討。【候補 = 富山県砺波市、南砺市】</p> <p>条例や計画策定の前準備が必要。住民が「このまちの風景を後世に残したい」、「このまちで生まれ、生活してよかった」と思えるような意識の醸成が必要。そうすることで、自ずと仕組みづくりはできてくるはずである。</p> <p>屋敷林の価値観について、町内に住んでいる人はあまり関心がないように思われる。いかに興味を持ってもらえるか対策を検討。</p> <p>町内の景観ビューポイントの整備。（やまがた景観物語にプラスして）。米沢の御成山公園のように憩いの場にできないか。合わせて、役場前ライブカメラの復活。故郷の風景のライブ配信をHPに掲載することも検討。</p> | |
| 事務事業の見直し検討 | |
| <p>景観形成に関して、優良活動モデルには一定程度補助金を上乗せする等、インセンティブ（成果報酬）を検討。子どもの自由研究のテーマとして「景観・田園散居」を選んでもらえるような取り組みを検討。夏休みの時期にワークショップを開催し、郷土愛と景観に対する意識の醸成を図る。</p> <p>景観計画・条例制定に向けた動きは住民の意識醸成がスタートライン。ワークショップの開催など、最も美しい村としての価値の認識を行っていく必要がある。</p> <p>公共施設整備のランドデザインに「公共施設×屋敷林」を記載できないか。施設と景観との親和を考えていかなければならない。</p> | |



| 4.現状分析 | Check |
|--------|--|
| 自己分析 | <p>評価できる点</p> <p>景観の維持は補助事業によりサポート。</p> |
| | <p>改善すべき点</p> <p>植栽に関しては、地区役員などいつも活動に参加している人だけでなく、いつもは活動に出来ない人をどのように参加を促すかがポイントになる。幼少期から景観に対する意識醸成を図る必要がある。親子での取り組みにより相乗効果があると考えられる。景観については長い取り組みが必要。条例や計画策定に向けたスキームを再構築する必要がある。</p> |
| 自己評価 | B / 効果はあった |

総合戦略 主要プロジェクト 評価シート

| | | | | |
|------|-------|-----|----------|---------------|
| 評価年度 | 令和3年度 | 所管課 | 住民課生活環境室 | 企画課、総務課、商工観光課 |
|------|-------|-----|----------|---------------|

| | | |
|-------------|-----|----------------|
| No./プロジェクト名 | 17 | スマートカントリー構想の実現 |
| 関連総合計画 | 重3 | 電池バレー構想の展開 |
| | 4-2 | 輸送・交通手段の再構築 |
| | 4-6 | 環境に優しいまちづくりの推進 |
| 関連総合戦略 | 14 | 域内循環社会の構築 |
| | 20 | バイオマス産業都市構想の推進 |

| | |
|------------|---|
| 1.プロジェクト概要 | Plan |
| 現状・背景 | <p>飯豊町は2020年12月にゼロカーボンシティ宣言を行い、脱炭素社会・循環型社会に向けた取り組みを推進していくことを表明した。宣言内容実現のため、再生可能エネルギーの利活用をはじめとした環境配慮施策をより一層推進していく必要がある。</p> <p>町内の公共交通は電車だけであり、バスやタクシー等の定期巡回はなく、移動における利便性の問題に加え、町内における高齢化により高齢ドライバーが増加することによる交通事故の危険性が増している。</p> |
| 課題 | <p>町役場だけでなく、町民や町内企業等に再生可能エネルギーの利活用をはじめとした脱炭素・循環型社会に向けた取り組み推進の機運をさらに高めていく必要があり、設備等の普及をさらに推進していく必要がある。</p> <p>また高齢者の運転免許返納制度が注目される中、安心して免許返納できる環境が整備しきれていない現状がある。そのため高齢ドライバーが安心して自動車運転免許を返納できる交通網を整備する必要がある。</p> |
| 解決策 | <p>上記のような背景や課題から、第5次総合計画において「電池を核とし、住宅、電気自動車が融合した、より洗練された田園地域」を「スマートカントリー」として定義し、最先端科学技術を取り入れた新しい農村の実現を目指している。</p> <p>太陽光発電システムやEV車等の再生可能エネルギー利活用設備の普及促進を図る。また利活用の意識醸成のため、町役場としても積極的に取り組みを行い、発信していく。</p> <p>町内の公共交通事情の課題解決に向け、既存の取り組みを継続、強化していくとともに飯豊電池バレー構想関係機関等と連携し、次世代モビリティシステムの開発研究を推進する。</p> |

| | | | | | | |
|-------------|--|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 事業目標/将来ビジョン | 町民や町内企業等の環境配慮意識を醸成し、再生可能エネルギー利活用設備の普及を図る。けん引役として、役場から率先して取り組み、取組を発信する。 | | | | | |
| 数値目標 (KPI) | 数値 (成果目標) | 2021(R03) | 2022(R04) | 2023(R05) | 2024(R06) | 2025(R07) |
| | | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 累計目標値 |
| | 電気自動車購入者への補助 | 0 | | | | 20件 |
| | 電気自動車充電スポット新設 | 0 | | | | 2か所 |
| | 次世代モビリティの開発数 | 0 | | | | 1台 |

| | |
|--------|---|
| 2.実行計画 | Do |
| 令和3年度 | |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・住宅用太陽光発電システム設置補助事業：予算額300千円 住宅用太陽光発電システムを設置する場合、設備の出力1kwあたり2万円の経費を補助（最大6万円） ・ほほえみカー（デマンド交通）運行事業：予算額20,000千円 町内及び近隣市町村等の範囲内を運行するデマンド交通の運行を飯豊町社会福祉協議会が実施しており、その事業費を補助している。 ・飯豊町次世代モビリティシステム開発事業補助金：予算額18,000千円 飯豊電池バレー構想の趣旨に賛同し、本構想の趣旨に賛同する企業等に次世代モビリティシステムの開発を実施する経費を補助する。 <p>※本事業における次世代モビリティシステムの定義は、「自動走行などの新技術の活用やMaaS等の施策連携により、飯豊町が抱える高齢化や交通事情等の課題解決に資する、利用者ニーズに即した新しいモビリティサービスのモデル」としている。</p> |
| 予算 | 18,000 内、WG提案事業に係る予算 0 |
| 令和4年度 | |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・住宅用太陽光発電システム設置補助事業（継続、一部拡充）：500千円 ・ほほえみカー（デマンド交通）運行事業（継続）：20,000千円 ・飯豊町次世代モビリティシステム開発事業補助金（継続）：4,500千円 <p>〇ワーキンググループでの提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町役場公用車へのEV等の導入及び充電スポットの整備：5,000千円 ・町役場の電力契約相手の見直し（やまがた新電力等の再生可能エネルギー事業者との契約） ・住宅取得奨励金への奨励額上乗せ：1,500千円 <p>家庭用再生設備（太陽光発電設備やペレットストーブ等）設置者に対し奨励額を上乗せ又は奨励の新設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・EV等購入補助金創設の検討 ・「N Oマイカー通勤デー」の設定 <p>近距離に住んでいる職員が徒歩や自転車通勤したり、相乗りで通勤する日を設定し実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「広報いいで」や町HPによる情報発信 ・「やりましょう」ではなく「やってみよう」という形式で、役場職員の環境配慮の取組を発信する。 ・町民向けシンポジウムの開催 <p>脱炭素に向けたシンポジウムを実施し、身近にできる脱炭素の取組について町民の意識醸成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内交通事情改善に向けた継続検討 |
| 予算 | 4,500 内、WG提案事業に係る予算 0 |
| 令和5年度 | |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・住宅用太陽光発電システム設置補助事業（継続、一部拡充）：500千円 ・ほほえみカー（デマンド交通）運行事業（継続）：20,000千円 ・飯豊町次世代モビリティシステム開発事業補助金（継続）：5,000千円 <p>〇ワーキンググループでの提案</p> <p>状況に応じて前年度より継続</p> |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |

| 5.プロジェクトの方向性の見直し | Action |
|---|--------|
| 方向性の検討 | |
| <p>中間報告会において糸長教授より、デジタル分野や農業分野をはじめとした幅広い分野を含むよう助言をいただいた。</p> <p>しかし、糸長教授が意図する「スマートカントリー」の定義が総論的なものであるのに対し第5次総合計画上の定義が各論的意味合いであること、総論的目標を達成するための総合戦略であり各プロジェクト推進WGであることから、他プロジェクトとのすみわけを考慮し、「再生可能エネルギーの活用」と「町内交通事情の改善」を中心にプロジェクトを進める方針としたい。</p> <p>「町内交通事情の改善」に関しては、R 3年度のWG内では改善に向けた具体的事業を提案するまでに至らなかったため、今後の継続検討課題としたい。</p> | |
| 事務事業の見直し検討 | |
| <p>ゼロカーボンシティ宣言をしたものの、再生可能エネルギーの利活用に関する施策が少ない。</p> <p>ほほえみカー運行事業は町社会福祉協議会が実施主体であり、町が主体となって行う町内交通事情改善施策が少ない。</p> <p>町内交通事情の改善に向けては課題が多い。カーシェアリングやスクールバスを活用した乗り合い、自転車活用推奨など様々な可能性を探っていく必要がある。</p> <p>中津川方面の移動手段の確保も大きな課題である。水没林や登山等観光客の移動手段が乏しい状況である。</p> <p>スマートカントリー構想の実現のため、具体的な事業やスキームを明確化し、周知が必要である。交通手段の再構築やゼロカーボンシティ宣言などが関連することから住民課が主体となって進めていただきたい。</p> | |

| 4.現状分析 | Check |
|--------|---|
| 自己分析 | <p>評価できる点</p> <p>住宅用太陽光発電システム設置補助事業については毎年概ね見込みに近い補助活用件数となっている。</p> <p>ほほえみカー運行事業について、町内の交通手段については高齢化の中で今後必要性がさらに高まってくると考えられる。</p> |
| | <p>改善すべき点</p> <p>住宅用太陽光発電システム設置補助事業については、現在用途を住宅用に限定しているが、町内には自宅兼店舗のような小規模事業者も多いため、住宅用に限定せず、要件緩和し普及推進を図ってもよいのではないか。</p> <p>住宅用太陽光発電システム設置補助事業について、飯豊町よりも上限額が高い自治体もある。普及拡大を図るため補助額増額を検討してもよいのではないか。（川西町：10万円、高畠町：10万円、朝日町：12万円）また、太陽光発電システム設置についてインセンティブ的な部分があってもよいのではないか。</p> |
| 自己評価 | B / 効果はあった |

総合戦略 主要プロジェクト 評価シート

| | | | |
|------|-------|-----|----------|
| 評価年度 | 令和3年度 | 所管課 | 企画課情報推進室 |
|------|-------|-----|----------|

| | | |
|-------------|-----|-------------------------|
| No./プロジェクト名 | 18 | デジタル化を活用した強固な社会基盤の確立 |
| 関連総合計画 | 重4 | デジタル化の推進 |
| | 4-4 | 情報通信基盤の整備・活用 |
| | 5-7 | 自律・自立した地方自治の実現 |
| 関連総合戦略 | 15 | 地域の拠点づくりと新たな地域支え合い活動の創造 |
| | 18 | デジタル化を活用した強固な社会基盤の確立 |

| | |
|------------|--|
| 1.プロジェクト概要 | Plan |
| 現状・背景 | <p>新型コロナウイルス感染症の拡大により、DX（デジタル・トランスフォーメーション）を通じて時間や空間という制約を克服しながら社会課題の解決や価値創造を促し、住民本位の行政、社会、地域等を実現しようとする取り組みが活発になっている。</p> <p>急激な人口減少と高齢化、そしてコロナ禍での「新しい日常」が求められる地域社会においても、デジタル技術を取り入れながら生活の質の向上や産業の成長に取り組んでいく。</p> |
| 課題 | <p>①職員減少に伴う一人当たりの業務量増加</p> <p>②紙ベースの申請や手続きが多い</p> <p>③町民間のデジタルデバイド</p> <p>④DXを進めることで社会がどのように変化し、自分たちの暮らしがどう良くなるか、想像が難しい</p> |
| 解決策 | <p>・①と②について、行政サービスのオンライン化を進める。置賜管内市町を参考に、県の「やまがたe申請」を用いてできそうな手続きから取り組む。</p> <p>・①について、庁内向けに業務効率化の助けとなる動画を作成する。</p> <p>・③について、ICT技術の低い方を対象とした使い方講座や、そもそもデジタル機器を持っていない方を対象とした申請手続き代行事業を外部団体に委託する。</p> <p>・④について、デジタル社会に慣れ、デジタル技術を使ってみようという意識を醸成させるため、①～③を一步一步進める。大きな変化を急がない。</p> |

| | | | | | | |
|-------------|---|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 事業目標/将来ビジョン | <ul style="list-style-type: none"> 「やまがたe申請」を活用する 動画を作成し、庁内に周知して効率化を図ってもらう デジタルデバイドを解消、低減できるような事業を実施する | | | | | |
| 数値目標 (KPI) | 数値 (成果目標) | 2021(R03) | 2022(R04) | 2023(R05) | 2024(R06) | 2025(R07) |
| | | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 累計目標値 |
| | 地域課題解決型モデル事業の実施 | 0 | | | | 1件 |
| | デジタルを活用した行政サービス提供 | 1 | | | | 3件 |
| | マイナンバーカード普及率 | 49.4% | | | | 100% |

| | |
|--------|---|
| 2.実行計画 | Do |
| 令和3年度 | |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・やまがたe申請を活用した行政手続きのオンライン化/予算：なし ①単発の学生生活支援事業で使用した ②その他押印不要の申請を探してオンライン化する ・業務の効率化を促進する動画の作成/予算：なし ①便利なキーボード操作 ②Office製品の便利機能 ③システムやアプリケーションの使い方 ・庁内情報推進委員会及び部会の設置 (R3.10) 自治体DX推進・県「Yamagata 幸せデジタル化構想」について情報共有 |
| 予算 | 0 内、WG提案事業に係る予算 0 |
| 令和4年度 | |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・やまがたe申請を活用した行政手続きのオンライン化/予算：なし ①押印廃止に伴い押印のない申請が増加するため、オンライン化できる申請が増える ②マイナンバー（個人番号）を利用する申請のオンライン化 ・業務の効率化を促進する動画の作成/予算：なし ①便利なキーボード操作 ②Office製品の便利機能 ③システムやアプリケーションの使い方 ・地域課題解決型モデル事業の参考となる先進地視察/予算：なし |
| 予算 | 0 内、WG提案事業に係る予算 0 |
| 令和5年度 | |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・やまがたe申請を活用した行政手続きのオンライン化/予算：なし ①押印廃止に伴い押印のない申請が増加するため、オンライン化できる申請が増える ②マイナンバー（個人番号）を利用する申請のオンライン化 ・業務の効率化を促進する動画の作成/予算：なし ①便利なキーボード操作 ②Office製品の便利機能 ③システムやアプリケーションの使い方 ・策定した地域課題解決型モデル事業/予算：未定 ①デジタルデバイド（デジタル格差）の解消を狙った事業を外部へ委託 |
| 予算 | 未定 内、WG提案事業に係る予算 未定 |

| 5.プロジェクトの方向性を見直し | Action |
|--|--------|
| 方向性の検討 | |
| <p>スタートしたばかりなので見直しはなし。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民のサービス向上や行政事務の効率化に向けた、飯豊町DXの推進を行なう。デジタルを活用した行政サービス提供に向けての庁内外の課題の調査分析を行い、DX推進を図るため（仮）飯豊町DX推進計画策定を行う。 ・デジタルが身近なものとして、業務や生活の中に浸透していることを伝える機会を作りながら、デジタルデバイドの解消を行っていく。 | |
| 事務事業の見直し検討 | |
| <p>WG目標として 業務効率化動画の作成 → R4年度以降取組み 令和7年度まで3件作成目標とする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的知見からの支援を考える。 | |



| 4.現状分析 | Check |
|--------|--|
| 自己分析 | <p>【やまがたe申請】 町ホームページの申込フォームよりも記入しやすいため、利用者側の利便性がアップした。申請者情報を一括でデータ化できるため、受付者側（職員側）の負担が減った。</p> <p>【業務効率化】 未実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庁内全体で取り組むための基盤となる組織作りを行い、課題解決へ向かうステップとなった。 |
| | <p>現時点ではなし。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部会の中で庁内外の行政デジタル化に向けての課題をどのような手法で調査分析していくか。 ・行財政改革検討委員会との調整が必要 ・専門的知見からの支援が必要 |
| 自己評価 | B / 効果はあった |



総合戦略 主要プロジェクト 評価シート

| | | | | |
|------|-------|-----|-------------|---------------------|
| 評価年度 | 令和3年度 | 所管課 | 産業連携室、総合政策室 | 学校教育振興室、農業振興室、生活環境室 |
|------|-------|-----|-------------|---------------------|

| | | |
|-------------|-----|---------------------|
| No./プロジェクト名 | 19 | こだわりの産業を創る商工業基盤の強化 |
| 関連総合計画 | 重2 | 起業・協働による仕事づくり |
| | 5-3 | 商工業の強化 |
| | 5-4 | 流通の拡大促進 |
| 関連総合戦略 | 1 | いいでの子、大したもんだプロジェクト |
| | 18 | デジタルを活用した強固な社会基盤の確立 |

| | |
|------------|---|
| 1.プロジェクト概要 | Plan |
| 現状・背景 | <p>個々の企業や事業者が技術基盤や経営基盤を培い、それらを維持、発展させるための支援を行ってきた。</p> <p>また近年の災害や新型コロナ等で町内企業を絶やさないために、企業等の体力強化の支援も行っている。</p> <p>昨今の国内外におけるSDGsの取組意識の高まりや飯豊町の「SDGs未来都市」の認定を受け、町だけでなく町内企業等でも取組みを推進していく必要がある。</p> <p>町内人口の減少や近隣市町村への大手チェーン商業施設の増加を受け、町内商店が減少している。</p> |
| 課題 | <p>町内事業者の高齢化が進んでおり、各業種の人材不足、後継者不足が進んでいる。</p> <p>そのような人的課題に加え、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受け、各事業の継続やサービス提供のあり方が大きく変化している。感染症や災害対応等の諸問題に向き合いつつ、これまで培ってきた事業を継続・拡大していく必要がある。</p> <p>本町は山形県内で最初に認定された「SDGs未来都市」であることから、町内における企業活動についても、SDGsに寄与するよう啓発・推進していく必要がある。</p> <p>町内の商店数をはじめ、EC販売やキャッシュレス等町内における買い物の利便性に課題を抱える。</p> |
| 解決策 | <p>災害や感染症対応等を含めた、事業継続・機能強化等に取り組む企業等を支援していく。</p> <p>また町内企業の概要や取組みについて、広く周知することで、町内外からの町内企業等に対する需要を喚起する。</p> <p>SDGsに関する企業等の取組みを紹介することで優良事例を共有し、SDGsの輪を広げていく。</p> <p>買い物環境改善のため、設備投資の支援や、商店新設に向けた検証等を検討、実施する。</p> |

| | | | | | | |
|---------------------|--|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 事業目標/将来ビジョン | <ul style="list-style-type: none"> 既存の補助事業等を効果的に活用し、技術基盤・経営基盤等の支援を継続する。 町内外に向けた町内企業情報の発信を支援し、情報発信力強化を図る。 町内の買い物環境改善に取り組む。 | | | | | |
| 数値目標 (KPI) | 数値 (成果目標) | 2021(R03) | 2022(R04) | 2023(R05) | 2024(R06) | 2025(R07) |
| | | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 累計目標値 |
| | 企業等へのSDGsワークショップ等開催 | 0 | | | | 1回/年 |
| 企業間連携による新サービス・商品の創出 | 3 | | | | 2回/年 | |

| | |
|--------|---|
| 2.実行計画 | Do |
| 令和3年度 | |
| 事業内容 | <p>・中小企業振興事業費補助金 (当初12,900千円 + 補正25,000千円)</p> <p>1 人材確保支援: 求人サイト掲載経費、HPやパンフレット作製経費等の補助 (補助率1/2、上限1,000千円) 申請件数: 1件</p> <p>2 創業支援: 創業や新しい分野への事業開始にかかる経費を補助 (補助率1/2、上限1,000千円) 申請件数: 2件</p> <p>3 商業活性化支援: 経営改善、売上向上等のために行う設備投資や広告宣伝等の経費を補助 (補助率2/3、上限300千円) 申請件数: 6件</p> <p>4 小売店経営改善支援事業: 経営改善のための設備改修にかかる経費を補助 (補助率3/4、上限 法人15,000千円 個人5,000千円) 申請件数: 3件(法1、個2)</p> <p>次年度の補助メニューに関し、下期に町内事業者対象のアンケート実施を検討。</p> |
| 予算 | 37,900 内、WG提案事業に係る予算 0 |
| 令和4年度 | |
| 事業内容 | <p>・中小企業振興事業費補助金 (継続) (12,900千円)</p> <p>補助メニューはアンケートをもとに見直しを検討 (事業所における申請、発注や決済におけるキャッシュレス対応などのデジタル化関連メニューの盛り込みを検討)。</p> <p>〇ワーキンググループでの提案</p> <p>・「いいでSDGs宣言企業 (仮称)」の募集と公表 (新規) (1,800千円)</p> <p>企業で実施している身近なSDGsの取組を、企業概要や連絡先等と併せて募集し、町HPに掲載、周知を図る。パンフレット形式にして教育機関等への地元企業紹介にも活用する。前段として、山形大学と連携したSDGsワークショップに幅広い分野の事業者、町民の参加を呼びかけ、取り組んでもらう。</p> <p>・中学生の職場体験受け入れ事業者募集の検討 (新規) (300千円)</p> <p>飯豊中学校で実施している職場体験について、より幅広い町内事業者に対し受け入れ先を募り、体験してもらうとともに、町内企業等を知る機会を提供する。事前学習などを通して町の重点分野も説明する機会を設け、それらを職場体験等につなげてもらう。令和5年度から実施できるよう、関係機関と調整、企業側の受け入れ状況整理等を実施する。</p> <p>・「出張スーパー (仮称)」事業や移動販売事業の検討と実施 (新規) (1,300千円)</p> <p>関係機関との調整や専門家からの助言を得ながら、町内の複数分野の事業者を募って定期的にマルシェ (市場) を開催できないか検討する。疑似スーパー形式 (複数分野の商品を一括会計) で実施し、町民の使用感を調査しながらスーパー新設の余地を検証する。また、高齢化で店に行けない住民が増えてくることを考慮し、移動販売の活性化を目指す。</p> <p>・町内商店等によるリサイクル資源の回収の推進</p> <p>ペットボトルやプラスチックトレーなどリサイクル可能な資源の回収ボックスの店頭への設置を推奨する。</p> |
| 予算 | 12,900 内、WG提案事業に係る予算 0 |
| 令和5年度 | |
| 事業内容 | <p>中小企業振興事業費補助金 (継続)</p> <p>補助メニューについてはアンケート調査等により引き続き検討を重ねる。下記「いいでSDGs宣言企業 (仮称)」の取組状況により補助額の上乗せ等インセンティブも検討する。</p> <p>〇ワーキンググループでの提案</p> <p>状況を見ながら前年度から継続又は開始</p> |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |

| 5.プロジェクトの方向性の見直し | Action |
|---|--------|
| 方向性の検討 | |
| <p>方向性の見直しは特になし</p> <p>具体的な方向性については以下4点。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップやSDG s 宣言企業を通して、町内事業者にSDG s に取り組んでもらう。 ・SDG s 宣言企業の公表によりSDG s の取組みを発信するとともに、各町内事業者の概要や強みを広く周知し、町内事業者同士の相互活用や町外からの需要喚起を図る。（まずは企業間マッチングをしやすくするための情報発信力の強化を図る。商工農林福多種多様な事業者情報を掲載することで異業種についても知ることができる。） ・出張スーパーや移動販売の実施やE C 販売強化により町内の買い物環境の改善を図る。 ・将来的に買い物支援が福祉的な部分につながる方向にもっていきたい。（移動販売利用者への栄養指導等） | |
| 事務事業の見直し検討 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・新たな取り組みや先進的な取り組みについては、町内事業者がなかなか取り組みづらい。 <p>例：SNS活用セミナー等を開催しても、高齢事業者が多いということもあり、参加数が少ない。</p> <p>アプローチの方法の検討が必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな取り組みについては、身近な成功例や実践例を周知すると、周りの企業等も実践しやすくなるのではないか。 <p>例：ネット通販やモバイルオーダー等のデジタル化、オンライン化</p> <ul style="list-style-type: none"> →都会の話、大型チェーン店の話としてなかなか導入が広がらない。 →近所の店でもやっているとなれば身近なものとして導入が広がるのでは。 <p>商工会の青年部と連携し、若手事業者や従業員への働きかけを強めることで導入促進を図れないか。</p> | |



| 4.現状分析 | | Check |
|--------|------------|--|
| 自己分析 | 評価 できる点 | <ul style="list-style-type: none"> ・中小企業振興事業費補助金についてはR3年度の申請件数が過去最多となったことから、町内事業者への支援の効果として一定程度成果があると考えられる。 ・SDG s を意識したWGの提案は、商工業基盤の強化への取組として評価できる。事業採択に向け、精査していただきたい。 |
| | 改善 すべき点 | <ul style="list-style-type: none"> ・SDG s を前面に出した事業展開は行っていない。町内企業等の取組強化推進の観点から、新たな取り組みを実施する必要がある。 ・中小企業振興事業費補助金の補助メニューについては、ニーズ調査等しながら、より町内事業者が使いやすい効果のあるメニューの検討を続けていく必要がある。 ・「買い物支援・買い物環境改善」というと「買い物弱者支援」と捉えがちだが、若い町民の町内商店利用を促す観点も必要である。例えば資源ごみをゴミ収集で回収してもらおうとすると、回収日が限定され、保管場所や指定のゴミ袋の購入経費が必要になる。その一方で、ペットボトルやトレーなどをいつでも無料で回収してくれる（換金可能なポイントがもらえる）町外大型チェーン店も存在する。大型店は資源回収を誘客につなげている。品揃えや価格以外にも工夫を促す必要がある。 |
| | 自己評価 | B / 効果はあった |



総合戦略 主要プロジェクト 評価シート

| | | | | |
|------|-------|-----|----------|------------|
| 評価年度 | 令和3年度 | 所管課 | 企画課総合政策室 | 農林振興課農林整備室 |
|------|-------|-----|----------|------------|

| | | |
|-------------|-----|-----------------|
| No./プロジェクト名 | 20 | バイオマス産業都市構想の推進 |
| 関連総合計画 | 4-6 | 環境に優しいまちづくりの推進 |
| | 5-1 | 大地と自然を生かす農林業の強化 |
| 関連総合戦略 | 14 | 域内循環社会の構築 |
| | 17 | スマートカントリー構想の実現 |

| | |
|------------|--|
| 1.プロジェクト概要 | Plan |
| 現状・背景 | <p>平成29年7月に「飯豊町バイオマス活用推進計画（飯豊町バイオマス産業都市構想）」を策定し、バイオマス資源を活用した取り組みを推進してきた。令和2年には、民間主体によるバイオガス発電事業が操業し、環境に配慮しつつ畜産業のさらなる振興を図る。</p> <p>計画のもう一つの柱である木質バイオマス資源を活用した熱供給プロジェクトを推進し、木質資源を活用した健全な森林の保全につなげ、公民による木質バイオマス資源の利用拡大を図る。森林資源と経済が地域で循環するまちづくりを目指す。</p> |
| 課題 | <p>バイオガス発電事業に関しては、令和2年10月より本格稼働を始めたばかりである。発電時に生産される消化液（液肥）についても地域で循環する仕組みづくりを進めている。今後は直面するであろう課題に対して官民連携して解決の道を探る必要がある。</p> <p>木質バイオマス資源活用に関しては、飯豊町の森林資源の中の大半を占める広葉樹をどう利用していくかが大きなテーマとなる。資源活用の中核として期待される中津川地区のバイオマス施設では、おが粉やチップ材として利用を図っており、さらなる収益増に取り組む。</p> <p>一方で、林業全体を見ると、木材価格の低迷による森林所有者の経営意欲の低下や森林不存村化、相続による世代交代などから整備が行き届かない森林の増加、林業従事者の後継者不足、里山荒廃による野生動物対策、適正な路網の整備など、課題は山積している。</p> <p>平成31年4月より施行された「森林経営管理制度」を実行していくことで、森林の適切な管理と林業の成長産業化の両立を図るとされているが、本町では山の地籍調査がほとんど行われていないため、森林の境界が不明瞭であり、伐採に至るまでのハードルが非常に高くなっている。</p> |
| 解決策 | <p>川上対策（木材調達）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林業従事者を増やす取り組み ・森林境界の明確化 <p>川中対策（木材加工）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チップ材生産コストを下げる取り組み <p>川下対策（木材利用）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木材使用による炭素固定化の推進 <p>・木を切れる場所（路網）の整備</p> <p>・広葉樹の利用方法の検討</p> <p>・木材のカスケード的利用</p> <p>・木質燃料を含めて使用量を増やす取り組み</p> |

| | | | | | | |
|-------------|--|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 事業目標/将来ビジョン | <ul style="list-style-type: none"> ・木質バイオマス資源を活用した熱供給施設の推進 ・森林の計画的な経営を行うため、森林資源のさらなる活用に向けた熱供給以外の取組み ・バイオガス発電で発生する液肥利用実証 | | | | | |
| 数値目標（KPI） | 数値（成果目標） | 2021(R03) | 2022(R04) | 2023(R05) | 2024(R06) | 2025(R07) |
| | | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 単年度数値 | 累計目標値 |
| | 再生可能エネルギー熱利用施設数 | 0件 | | | | 10件 |
| | 再生可能エネルギー導入施設数 | 1件 | | | | 10件 |

| | |
|--------|---|
| 2.実行計画 | Do |
| 令和3年度 | |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・木質燃料利用促進事業 <ul style="list-style-type: none"> ○木質ペレット購入補助：300千円 →木質ペレットの購入に対し100kg購入ごとに町の商品券1,000円分を補助 ・木材利用促進関連事業 <ul style="list-style-type: none"> ○木材製品利用住宅建築奨励等助成事業：①4件 1,910千円 ②5件 750千円 <ul style="list-style-type: none"> ①県産木材を一定量以上利用する町内業者が建設する新築住宅へ最大50万円助成 ②県産木材を一定量以上利用する新築住宅へ15万円を助成 ○森林境界明確化及び森林経営管理制度促進事業：7,700千円 <ul style="list-style-type: none"> →森林経営管理制度により森林所有者への経営管理意向調査を行う準備のため、航空レーザー測量による森林境界を明確化。R3~R7の5ヶ年で実施 |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |
| 令和4年度 | |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・しらさぎ荘チップボイラー設置事業 「飯豊町木質バイオマスエネルギー事業化検討・しらさぎ荘プロジェクト2019」として、ワーキンググループが発足。補助事業への要望を提出済。 ○ワーキンググループでの提案 <ul style="list-style-type: none"> ・起業型地域おこし協力隊 自伐型林業を主たる事業として展開することにより、木を切る人材の確保、地域の活性化や地域産業の振興を図ることを目的として起業型地域おこし協力隊を募集する。そのための受け入れ態勢（生活拠点・働き場所など）を整える。 ・液肥の利活用効果について農作物等への活用を想定し、より効果的な使用方法は何かを探るため、研究機関との連携により効果検証を行えるための協議を行う。 |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |
| 令和5年度 | |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> ○ワーキンググループでの提案 <ul style="list-style-type: none"> ・起業型地域おこし協力隊の募集 自伐型林業を主たる事業として起業型地域おこし協力隊を募集する。木を切ること、炭焼きによる広葉樹木炭生産、炭のブランド化を業務として取り組みながら、木材のさらなる利用促進に寄与することを想定している。 ・液肥利用の促進を図るため、研究機関と連携して農作物への効果検証を行う。 <ul style="list-style-type: none"> 研究機関の想定：県（農業総合研究センターor産地研究室）、山大農学部 ・定住促進住宅いいでハイツの大規模改修が行われる時期を担当課に確認し、木質バイオマスエネルギーを活用した熱供給システムの導入を検討する。【時期未定】 |
| 予算 | 内、WG提案事業に係る予算 |

| 5.プロジェクトの方向性の見直し | Action |
|---|--------|
| 方向性の検討 <ul style="list-style-type: none"> 木質燃料については木質ペレットから木質チップへの転換時期に来ている。しかしながら木質ペレットを推進し、導入実績も多数ある中、ペレット関連の補助事業をやめることはできない。 町内の森林の大半の面積を占める広葉樹をどう活用していくかを検討する必要がある。 チップやペレットによる木質燃料を推進することでエネルギーに消費される資金を域内循環することについてはよいが、木材を伐採する人や燃料生産コストの問題は解決していかなければならない。 住宅建材としてあまり利用されていない広葉樹についてどのような利用ができるか検討すべき。家具・木炭・チップなど利用できる場所を見つけて、その促進を図る必要がある。 液肥のさらなる利活用について検討していく必要がある。 | |
| 事務事業の見直し検討 <ul style="list-style-type: none"> 木材の製材ができない中津川バイオマスは、伐採した木材をすべてチップやおが粉にしているため、伐採した材をすべて低収益のチップやおが粉にしてしまっている。 県内で、30年程度で伐採可能なカラマツの植樹も検討されている。ただし、住宅建材としては集成材としての利用となる せっかくの木材資源を木質燃料による使用が大半となることは、町の林業政策としてはどうか。針葉樹であれば住宅建材として、広葉樹であれば家具、炭など木材に付加価値をつけて売るといった施策を実施したうえで残材を木質燃料として利用する、段階的な利用を図るべきである。 中津川バイオマスでも木材の製材が行えるような体制（人員・土地・施設など）構築に向けて関係各所との協議を進める必要がある。 | |



| 4.現状分析 | Check |
|--------|---|
| 自己分析 | 評価できる点 <ul style="list-style-type: none"> バイオガス発電については、本格稼働により売電収益もでてきている。また、発電所駐車場敷地内では液肥の無償提供が始まっており、循環型社会の形成、地産地消の資源循環、耕畜連携の更なる推進など、多様な取り組みへの効果が期待できる。 チップボイラーの設置については少しずつではあるが取り組みは進んでいる。 バイオガス発電については、運用を開始したばかりであり、事業実施による効果や問題点が露呈するのはまだ先である。今後数年かけて問題点を抽出し、より効果的な取り組みが行われるよう検討する必要がある。 |
| | 改善すべき点 <ul style="list-style-type: none"> ペレット政策からチップ政策への切り替えが進んでいる。事業の効率化を考えれば、ペレット関連の補助は廃止を検討すべきであるが、これまでのペレット政策により中津川バイオマスという会社の設立を促した。また、いい型ペレットストーブについても多くの方に購入してもらっている状況の中で、ペレット関連のサポート（補助）はやめられない。 いきなり域内循環は目指せない。使用箇所（需要）を増やすことで生産（供給）側についても事業への参入意欲を検討できるようになる。 現在のウッドショックにより、国産木材の需要が高まっている。できる限りスピーディな対策を。 液肥の利用について、計画では隣接するなぐめやま牧場に利用することとしているが、生産される量すべてが消費しきれない懸念があるため、使用できる道を探っていく必要がある。 |
| | 自己評価 <p style="text-align: center;">B / 効果はあった</p> |

